

青森県ドクターヘリ運航に係る  
実績報告書  
(令和3年度)

## 目 次

はじめに	1
運航実績報告書作成の目的	2
運航実績報告対象期間と報告方法	2
本報告書における用語の定義	2
1 運航状況全体に関する報告	
【報告】 運航状況全体に関する報告	3
(1) 二次保健医療圏延べ要請件数	5
(2) 要請区分別出動件数	6
(3) 二次保健医療圏別出動件数	7
(4) 理由別不出動件数	8
(4) 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況	11
【参考】 令和3年度消防本部別運航実績数	13
【参考】 令和3年度二次保健医療圏別延べ要請件数	13
【参考】 北東北3県ドクターヘリ基地病院からの半径100km圏	14
2 令和3年度の運航実績の報告	
(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)	
【報告】 令和3年度の運航実績の報告	
(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)	15
(1) 市町村別出動件数	17
(2) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送方法	18
(3) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関	20
(4) ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類	24
(5) 覚知から医療機関搬送までの時間	28
3 令和3年度の施設間搬送に係る運航実績の報告	
【報告】 令和3年度の施設間搬送の報告	30
(1) 県病ヘリ	31
(2) 八戸ヘリ	33
4 2機体制の効果の報告	
【報告】 2機体制効果の報告	35
(1) 2機体制の効果 ～1機体制では対応できなかった事案～	36

## ○ はじめに

本県は2つの半島を含む広い県土を有しているという地理的条件の下で、医師不足の問題を抱えているため、限られた医療資源を有効に活用し、質の高い救急医療を提供することが大きな課題であった。

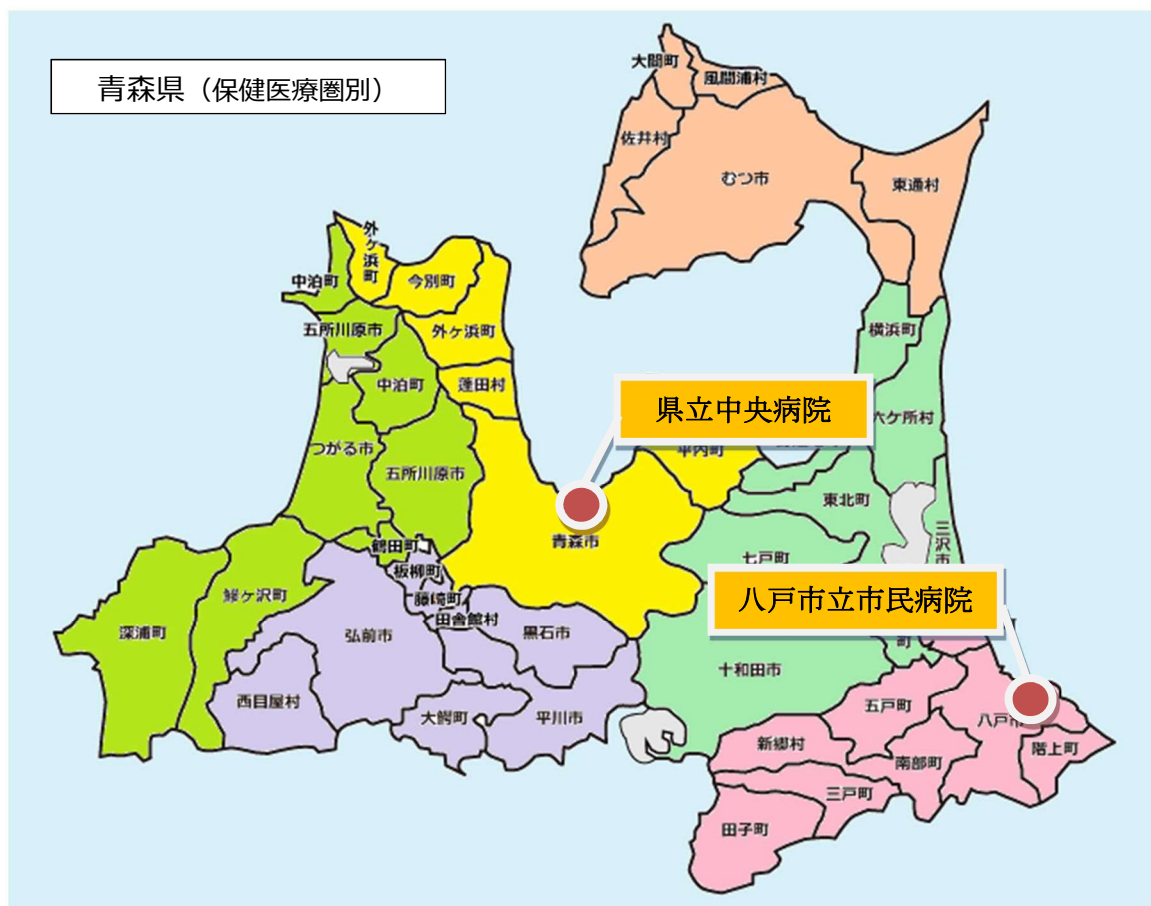
そこで、青森県医療審議会での合意に基づき、平成20年7月に改定した青森県医療計画にドクターヘリの整備促進を掲げ、救命率の向上を早期に図るため、平成21年3月25日から八戸市立市民病院を暫定的にドクターヘリ運航基地病院として運航を開始した。

その後、本県のドクターヘリ事業の安定的運営を図り、県全体で、より効果的なドクターヘリ運航を行うため、県立中央病院を中心とした八戸市立市民病院との共同・分担運航を行うこととし、平成23年4月1日から、県立中央病院と八戸市立市民病院によるドクターヘリの共同・分担運航を開始した。

この共同・分担運航の開始により、出動要請件数の増加、特に津軽地域からの要請の大幅な増加が明らかになったことに加え、東日本大震災におけるドクターヘリの活躍もあったことから、県として、県内医療関係者の議論を踏まえた上で、本県の救急医療体制の充実のため、できるだけ速やかな複数機導入を目指して取り組むこととした。

複数機の導入に向け、ドクターヘリ運航調整委員会、救急・災害医療対策協議会のほか、平成23年11月に、青森県医療審議会において、これまでの運航実績に係る検証・評価結果を基にした議論の結果、2機体制での運用が望ましいとの意見を頂いた。これにより平成24年10月1日に、2機体制での運用を開始した。

また、北東北3県広域連携については、平成25年4月から試行的に開始され、平成26年10月から3県知事の協定による本格運航が始まっているところである。



## ○ 実績報告書作成の目的

ドクターヘリの運航においては、効率的かつ効果的な運航を行うため、継続的に実績をまとめ、運用上の課題を明らかにしていくことが必要である。

このため、運航に係る多方面からの実績を整理し、本報告書を取りまとめたものである。

## ○ 運航実績報告対象期間と報告方法

運航実績報告対象期間は、平成21年3月25日から令和4年3月31日までの期間とした。なお、詳細な報告については令和3年度分を行った。

### ① 運航状況全体に関する報告

主に運航開始から令和3年度までの出動要請件数などの推移について整理。

### ② 令和3年度の運航実績の報告

ドクターヘリの運航実績を市町村別や傷病者の症例、覚知から医療機関搬送までの時間などについて整理。

### ③ 令和3年度の施設間搬送に係る運航実績の報告

搬送元医療機関と依頼先医療機関の状況の他、搬送患者の症例について整理。

### ④ 2機体制の効果

1機体制では対応出来なかった事案数の検証について整理。

## ○ 本報告書における用語等の定義

### 《現場出動》

消防本部からのドクターヘリ要請を受けて患者搬送のため、現場に出動したものをいう。

### 《離陸前キャンセル》

消防本部からの要請を受けドクターヘリ出動の準備をしたものの、救急隊がドクターヘリ要請事案ではないと判断し、離陸前に要請を中止したものをいう。

### 《不出動》

天候不良、ドクターヘリ運用時間外等により出動しなかったものをいう。

### 《離陸後キャンセル》

要請に応じて離陸したものの、運航中に天候悪化等の理由により、基地病院に引き返すことをいう。

### 《救急外来搬送》

現場出動した救急隊が処置可能な最寄りの医療機関に搬送した後、搬送先の医療機関の医師の判断により、より高次の医療機関への搬送をドクターヘリで行った場合のことをいう。

### 《施設間搬送》

既に入院加療中の傷病者を転院させるため、ドクターヘリで搬送した場合のことをいう。

## 運航状況全体に関する報告（P. 5～12）

### ○二次保健医療圏別延べ要請件数（P. 5）

- ・ 延べ要請件数は、令和3年度は974件で、前年度より6件増加した。平成26年度以降、延べ要請件数は概ね横ばいで推移している。
- ・ 今後の延べ要請件数については、本県における消防機関を含めたドクターヘリの運用体制が安定期にあることから、1,000件前後で推移するものと考えられる。

### ○要請区分別出動件数（P. 6）

- ・ 令和3年度の出動件数は681件で、前年度より31件減少した。令和元年度以降、微減傾向が見られる。
- ・ 要請区分別の出動件数をみると、現場出動が最も多く、令和3年度は572件（84.0%）で、全体の80%前後で推移している。救急外来搬送は減少傾向、施設間搬送は概ね横ばいで推移している。

### ○二次保健医療圏別出動件数（P. 7）

- ・ 二次保健医療圏ごとの出動件数では、八戸地域及び上十三地域で合わせて全体の5割程度を占めているが、近年青森地域の比率が上昇している。
- ・ 前年度との比較では、特に青森地域の出動件数が増加し、八戸及び上十三地域で出動件数が減少した。

その要因としては、青森地域において、各消防本部と基地病院や受け入れ病院との間で、ドクターヘリ要請に係る認識の共有や事例のフィードバック等の連携が進んだことで、ドクターヘリの要請や受入れがより身近になり、結果として出動件数が増加したことや、八戸及び上十三地域でドクターヘリ要請の可能性が高い重症事案が減少したことなどが考えられる。

### ○理由別不出動件数（P. 8～10）

- ・ 令和3年度の不出動件数は234件で、前年度より49件増加した。要請件数に占める割合は25.6%で、前年度から5%上昇した。
- ・ 不出動の理由として、最も多い理由は天候不良であり、令和3年度は142件（60.7%）となっている。
- ・ 平成24年10月から2機による運航体制となったが、基地病院の天候が良い場合でも、現場が天候不良の場合にはドクターヘリが離着陸できない（現場近隣に離着陸できる可能性はある）ため、2機体制の効果が発揮できない場合もある。
- ・ なお、重複要請による不出動件数は平成28年度以降20件前後と概ね横ばい傾向にある。

#### ○北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況（P. 11～12）

- ・ 令和3年度の広域連携に基づく北東北3県の出動件数の合計は37件で、前年度と同数であった。
- ・ 令和3年度の青森県の出動件数は25件で、岩手県への出動が25件、秋田県への出動が0件であった。
- ・ 令和3年度の岩手県の出動件数は11件で、青森県への出動が0件、秋田県への出動が11件であった。
- ・ 令和3年度の秋田県の出動件数は1件で、青森県への出動が1件、秋田県への出動が0件であった。
- ・ 本県から他県への出動要請については、2機の運用により比較的必要性が低いことから、平成25、26、28、令和3年度にそれぞれ1件ずつ、計4件である。令和3年度においては、初めて秋田県への出動要請を行った。
- ・ 要請要件別では、医師の判断が17件（46.0%）、で最も多く、次いで他事案対応中が8件（21.6%）となっている。
- ・ なお、青森県ドクターヘリが他県出動中で重複要請により不出動となった件数（第二出動要請基地病院において重複要請で、かつ重複した出動先が県外であったもの）は、0件であった。

# 1 運航状況全体に関する報告

## (1) 二次保健医療圏別延べ要請件数

二次保健医療圏別の延べ要請件数については、図表1-1-1及び1-1-2のとおりである。  
令和3年度の述べ要請件数は974件で、前年度より6件増加した。平成29年度以降、延べ要請件数は概ね横ばいで推移している。

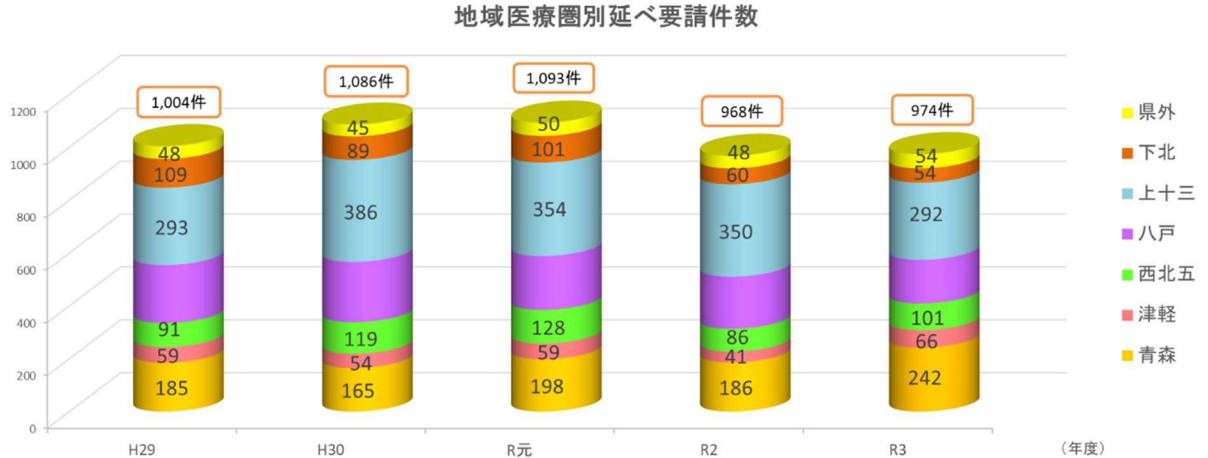
【図表1-1-1】二次保健医療圏別延べ要請件数

(単位：件)

年度	青森		津軽		西北五		八戸		上十三		下北		県外		合計	
H29	185	18.4%	59	5.9%	91	9.1%	219	21.8%	293	29.2%	109	10.9%	48	4.8%	1,004	
	青森	175	34.7%	54	10.7%	85	16.8%	5	1.0%	81	16.0%	95	18.8%	10	2.0%	505
	八戸	10	2.0%	5	1.0%	6	1.2%	214	42.9%	212	42.5%	14	2.8%	38	7.6%	499
H30	165	15.2%	54	5.0%	119	11.0%	228	21.0%	386	35.5%	89	8.2%	45	4.1%	1,086	
	青森	153	29.8%	50	9.7%	114	22.2%	8	1.6%	106	20.7%	77	15.0%	5	1.0%	513
	八戸	12	2.3%	4	0.7%	5	0.9%	220	38.4%	280	48.9%	12	2.1%	40	7.0%	573
R元	198	20.5%	59	6.1%	128	13.2%	203	21.0%	354	36.6%	101	10.4%	50	5.2%	1,093	
	青森	189	39.9%	51	10.8%	119	25.1%	7	1.5%	95	20.0%	88	18.6%	4	0.8%	553
	八戸	9	1.8%	8	1.6%	9	1.8%	196	39.7%	259	52.4%	13	2.6%	46	9.3%	540
R2	186	19.2%	41	4.2%	86	8.9%	197	20.4%	350	36.2%	60	6.2%	48	5.0%	968	
	青森	183	38.6%	37	7.8%	81	17.1%	5	1.1%	98	20.7%	55	11.6%	15	3.2%	474
	八戸	3	0.6%	4	0.8%	5	1.0%	192	38.9%	252	51.0%	5	1.0%	33	6.7%	494
R3	242	25.0%	66	6.8%	101	10.4%	165	17.0%	292	30.2%	54	5.6%	54	5.6%	974	
	青森	237	50.0%	61	12.9%	97	20.5%	6	1.3%	69	14.6%	48	10.1%	13	2.7%	531
	八戸	5	1.0%	5	1.0%	4	0.8%	159	32.2%	223	45.1%	6	1.2%	41	8.3%	443

【図表1-1-2】二次保健医療圏別の延べ要請件数

(単位：件)



(2) 要請区分別出動件数

要請区分別出動件数は図表 1-2-1 及び 1-2-2 のとおりである。

令和 3 年度の出動件数は 681 件で、前年度より 31 件減少した。令和元年度以降、微減傾向が見られる。

要請区分別の出動件数をみると、現場出動が最も多く、令和 3 年度は 572 件 (84.0%) で、全体の 80% 前後で推移している。救急外来搬送は減少傾向、施設間搬送は概ね横ばいで推移している。

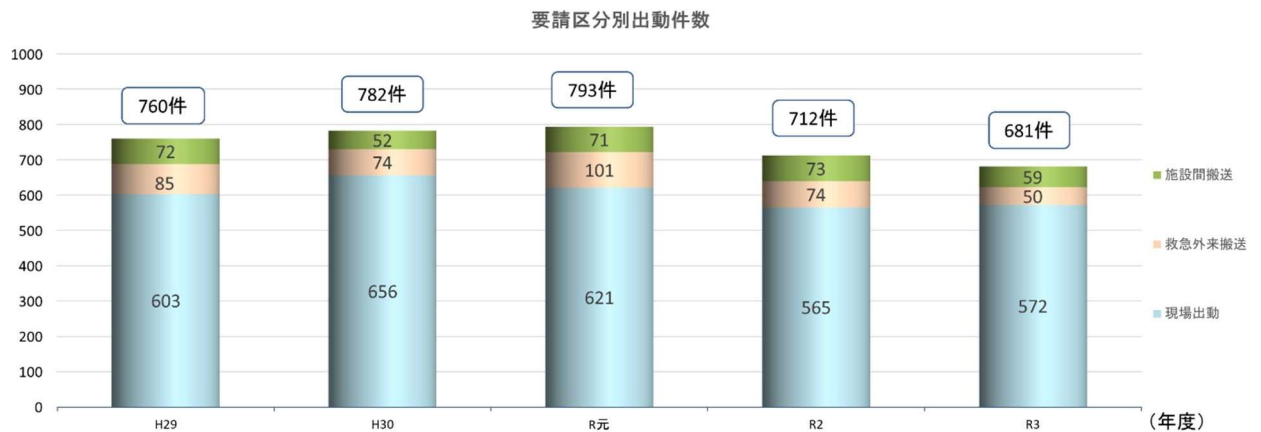
【図表 1-2-1】要請区分別出動件数

(単位：件)

年度		要請件数 (出動件数+ 不出動件数)	出動件数		現場出動		救急外来 搬送		施設間 搬送		うち、離陸後 キャンセル	
			うち、離陸後 キャンセル	現場出動 出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	
H29	県全体	940	760	60	603 (79.3%)	58	85 (11.2%)	1	72 (9.5%)	1		
	県立中央病院	476	351	24	268 (76.4%)	24	43 (12.3%)	0	40 (11.4%)	0		
	八戸市立市民病院	464	409	36	335 (81.9%)	34	42 (10.3%)	1	32 (7.8%)	1		
H30	県全体	999	782	84	656 (83.9%)	83	74 (9.5%)	0	52 (6.6%)	1		
	県立中央病院	480	341	38	268 (78.6%)	38	41 (12.0%)	0	32 (9.4%)	0		
	八戸市立市民病院	519	441	46	388 (88.0%)	45	33 (7.5%)	0	20 (4.5%)	1		
R元	県全体	1,014	793	65	621 (78.3%)	63	101 (12.7%)	0	71 (9.0%)	2		
	県立中央病院	516	366	33	280 (76.5%)	32	46 (12.6%)	0	40 (10.9%)	1		
	八戸市立市民病院	498	427	32	341 (79.9%)	31	55 (12.9%)	0	31 (7.3%)	1		
R2	県全体	897	712	41	565 (79.4%)	39	74 (10.4%)	1	73 (10.3%)	1		
	県立中央病院	454	323	28	233 (72.1%)	26	41 (12.7%)	1	49 (15.2%)	1		
	八戸市立市民病院	443	389	13	332 (85.3%)	13	33 (8.5%)	0	24 (6.2%)	0		
R3	県全体	915	681	41	572 (84.0%)	39	50 (7.3%)	2	59 (8.7%)	0		
	県立中央病院	509	348	28	283 (81.3%)	26	35 (10.1%)	2	30 (8.6%)	0		
	八戸市立市民病院	406	333	13	289 (86.8%)	13	15 (4.5%)	0	29 (8.7%)	0		

【図表 1-2-2】要請区分別出動件数

(単位：件)





### (3) 二次保健医療圏別出動件数

二次保健医療圏別出動件数は図表1-3-1及び1-3-2のとおりである。

八戸地域及び上十三地域で合わせて全体の5割程度を占めているが、近年青森地域の比率が上昇している。

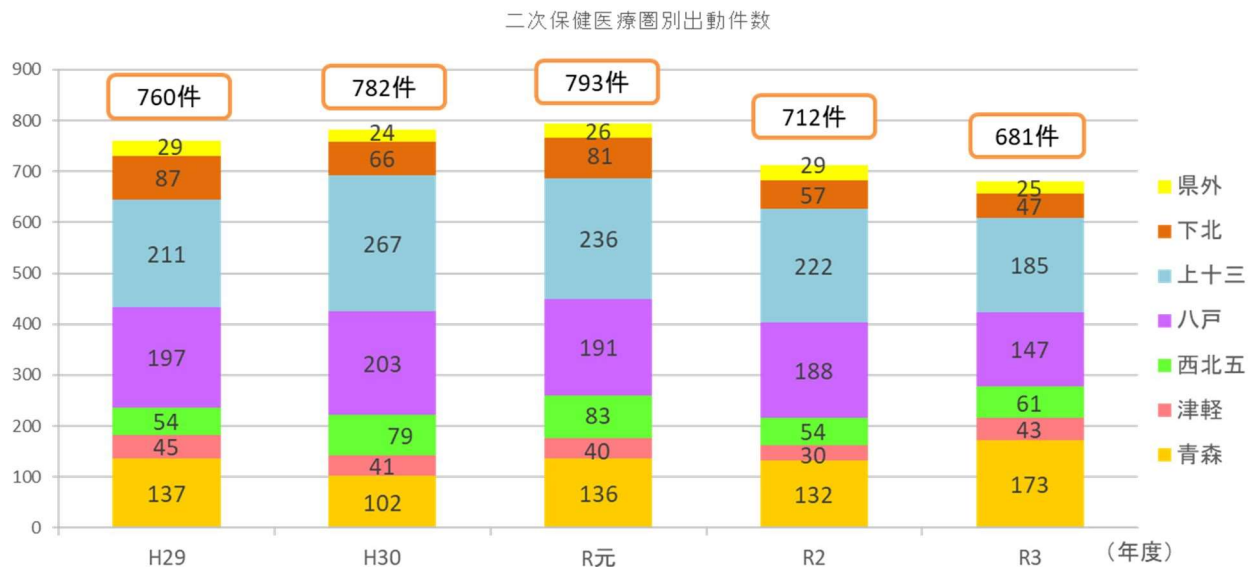
【図表1-3-1】二次保健医療圏別出動件数

(単位：件)

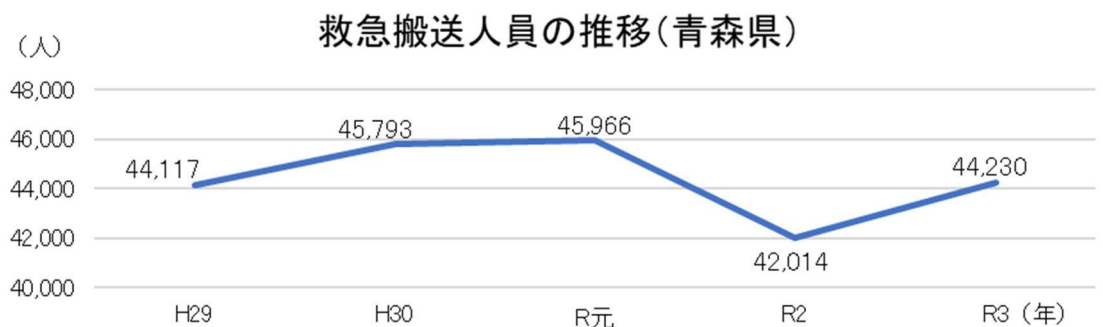
年度		青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	県外	合計
H29	(合計)	137	45	54	197	211	87	29	760
	県立中央病院	128	41	54	3	49	74	2	351
	八戸市立市民病院	9	4	0	194	162	13	27	409
H30	(合計)	102	41	79	203	267	66	24	782
	県立中央病院	94	39	77	7	62	61	1	341
	八戸市立市民病院	8	2	2	196	205	5	23	441
R元	(合計)	136	40	83	191	236	81	26	793
	県立中央病院	129	37	79	6	39	76	0	366
	八戸市立市民病院	7	3	4	185	197	5	26	427
R2	(合計)	132	30	54	188	222	57	29	712
	県立中央病院	130	29	53	12	42	52	5	323
	八戸市立市民病院	2	1	1	176	180	5	24	389
R3	(合計)	173	43	61	147	185	47	25	681
	県立中央病院	170	42	61	5	26	44	0	348
	八戸市立市民病院	3	1	0	142	159	3	25	333

【図表1-3-2】二次保健医療圏別出動件数

(単位：件)



### 【参考】 救急搬送人員の推移 (青森県)



※ 令和3年分は速報値

資料：消防庁「救急・救助の現況」

#### (4) 理由別不出動件数

理由別の不出動件数については図表 1-4-1 から 1-4-4 のとおりである。

令和 3 年度の不出動件数は 234 件で、前年度より 49 件増加した。要請件数に占める割合は 25.6%で、前年度から 5 ポイント上昇した。

不出動の理由として、最も多い理由は天候不良であり、令和 3 年度は 142 件 (60.7%) となっている。

【図表 1-4-1】理由別不出動件数

(単位：件)

年度		要請件数 (出動件数+ 不出動件数)	不出動	要請件数に 占める割合	離陸前 キャンセル	天候不良	時間外	重複要請	その他
	県立中央病院	476	125	(26.3%)	20	81	7	17	0
	八戸市立市民病院	464	55	(11.9%)	17	27	6	5	0
H30	県全体	999	217	(21.7%)	27	146	20	23	1
	県立中央病院	480	139	(29.0%)	14	96	14	15	0
	八戸市立市民病院	519	78	(15.0%)	13	50	6	8	1
R元	県全体	1,014	221	(21.8%)	41	129	28	21	2
	県立中央病院	516	150	(29.1%)	19	94	21	14	2
	八戸市立市民病院	498	71	(14.3%)	22	35	7	7	0
R2	県全体	897	185	(20.6%)	25	122	21	13	4
	県立中央病院	454	131	(28.9%)	14	92	12	10	3
	八戸市立市民病院	443	54	(12.2%)	11	30	9	3	1
R3	県全体	915	234	(25.6%)	42	142	18	28	4
	県立中央病院	509	161	(31.6%)	23	105	9	22	2
	八戸市立市民病院	406	73	(18.0%)	19	37	9	6	2

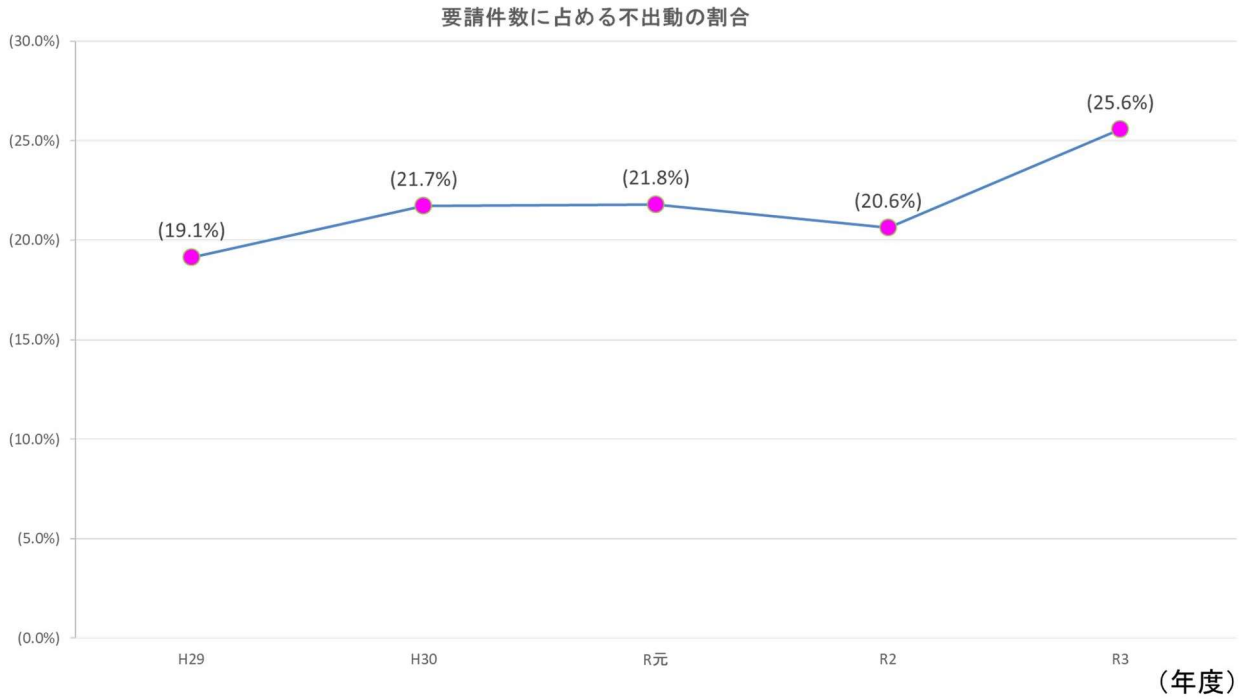
#### 不出動の「重複要請」の内訳

(単位：件)

年度		他方へ要請したが、他方でも出動中。 (2機とも出動中)	他方へ要請していない、または、天候不良で出動できないため他方を要請したが、出動中だったなど。	計
H29	県全体	2	20	22
	県立中央病院	2	15	17
	八戸市立市民病院		5	5
H30	県全体	5	18	23
	県立中央病院	4	11	15
	八戸市立市民病院	1	7	8
R元	県全体	0	21	21
	県立中央病院	0	14	14
	八戸市立市民病院	0	7	7
R2	県全体	1	12	13
	県立中央病院	1	9	10
	八戸市立市民病院	0	3	3
R3	県全体	2	26	28
	県立中央病院	1	21	22
	八戸市立市民病院	1	5	6

他事案対応中に要請があった場合でも、救急隊で対応可能な事案などは、他方のドクターヘリを要請していない。

【図表 1 - 4 - 2】 要請件数に占める不出動の割合



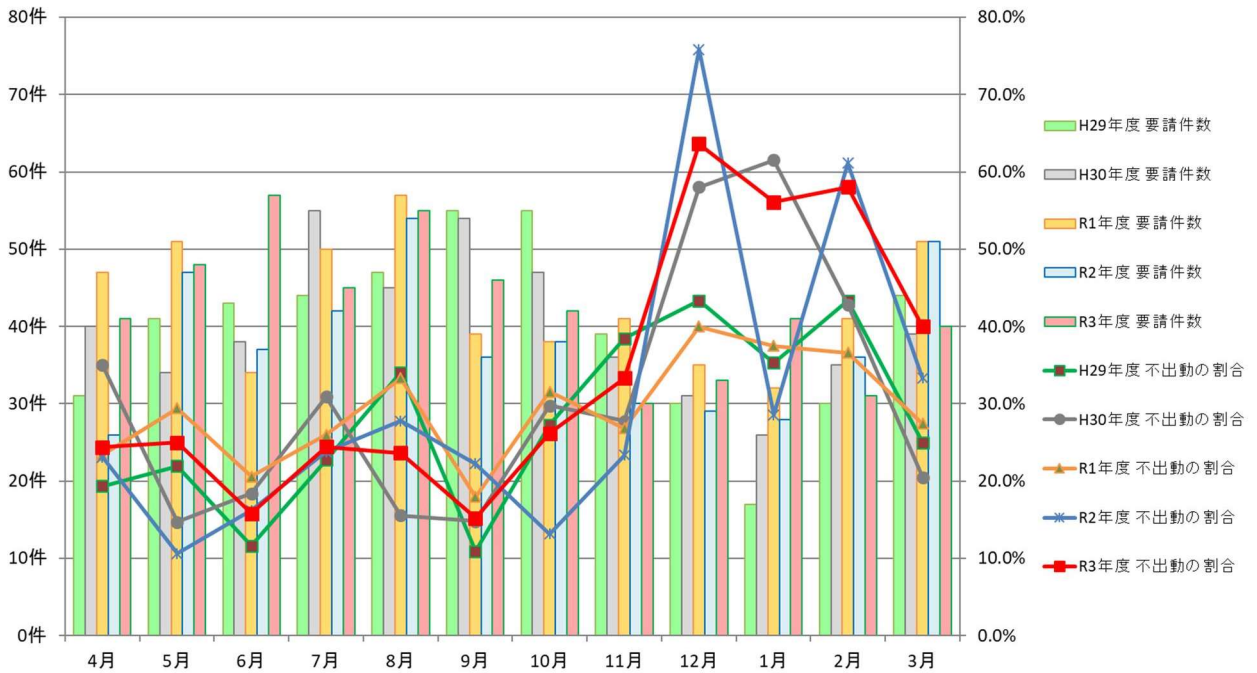
【図表 1 - 4 - 3】 理由別不出動件数

(単位：件)

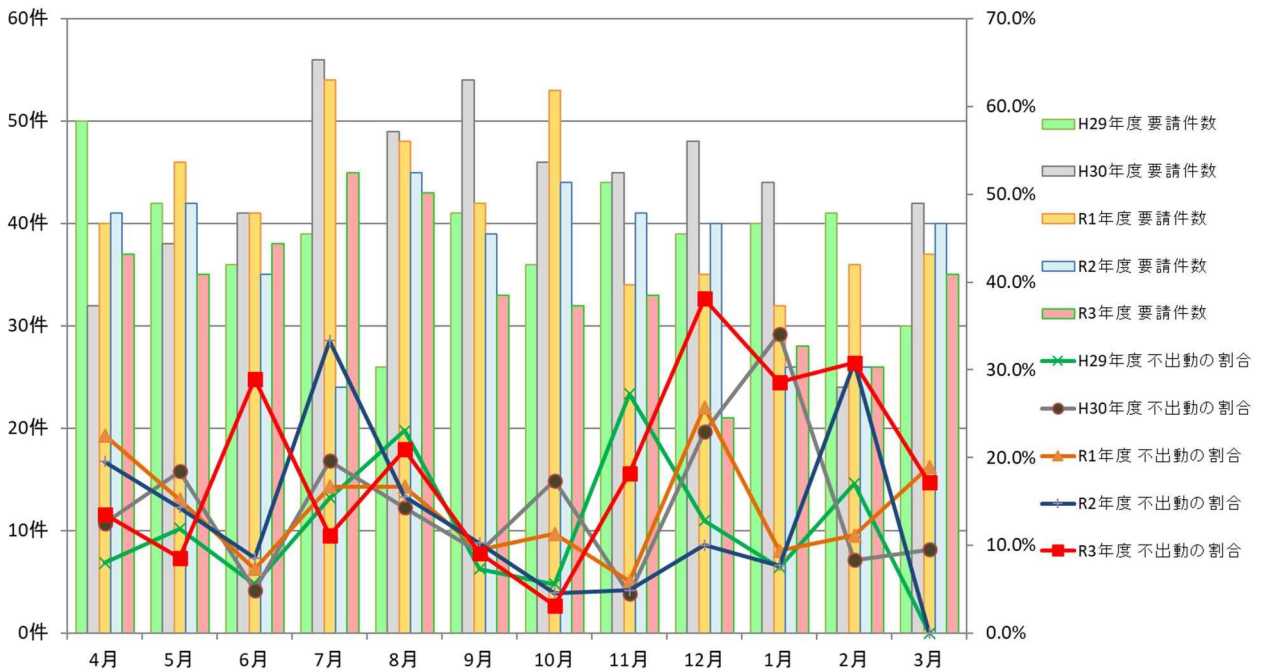


【図表1-4-4】 出勤要請に占める不出動の割合

県病ヘリ 要請件数に占める不出動の割合



八戸ヘリ 要請件数に占める不出動の割合



(5) 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況

北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況は図表1-5-1のとおりである。

令和3年度の青森県の出動件数は25件で、うち岩手県への出動が25件、秋田県への出動は0件だった。

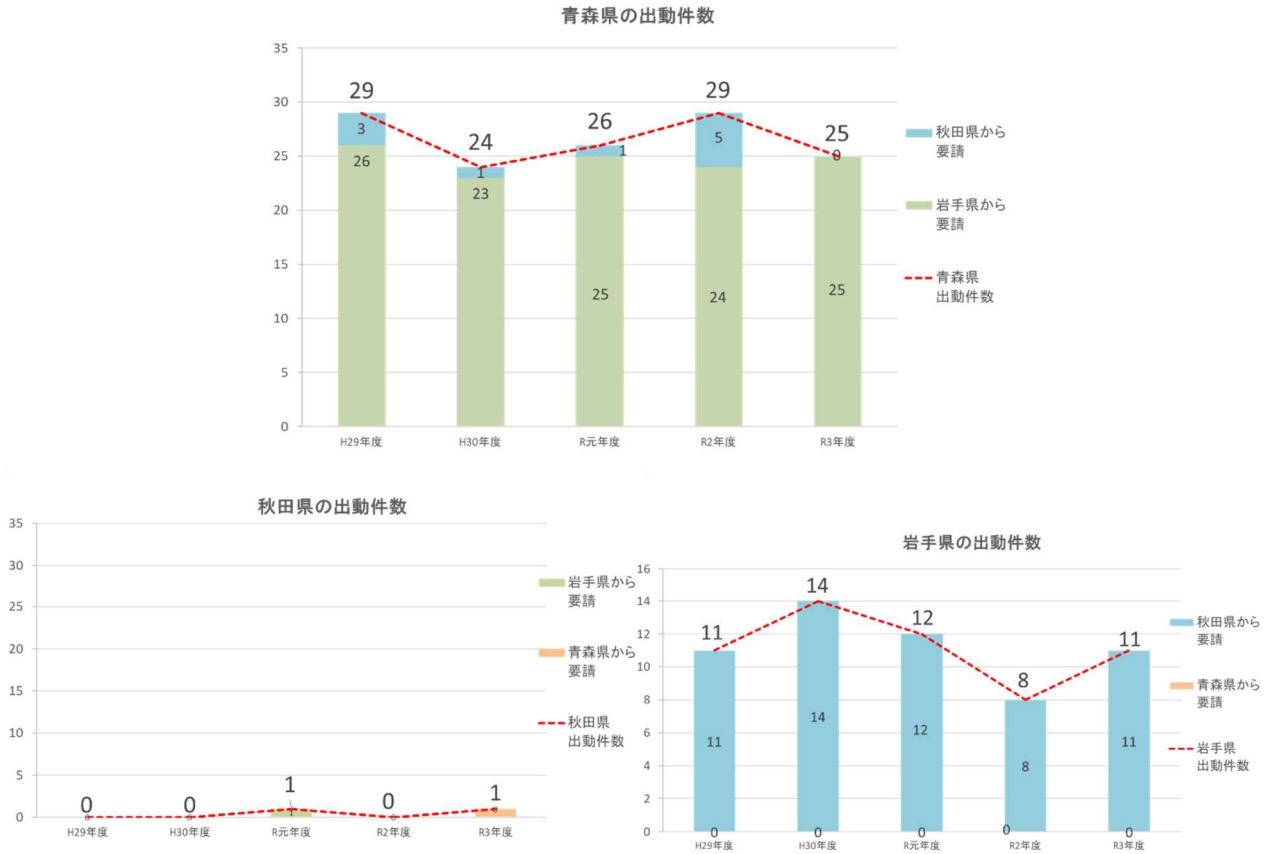
【図表1-5-1】 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況

(単位：件)

年度			要請県			合計	(左の内訳)要請要件別出動件数			
			青森県	岩手県	秋田県		他事案 対応中	天候不良	医師の 判断	その他
H29	出動県	青森県	(計)	26	3	29	12	12	3	2
			県病		2	2	1	1		
			八戸	26	1	27	11	11	3	2
		岩手県			11	11	3		8	
		秋田県								
H30	出動県	青森県	(計)	23	1	24	11	6	4	3
			県病		1	1	1			
			八戸	23		23	10	6	4	3
		岩手県			14	14	4		10	
		秋田県								
R1	出動県	青森県	(計)	25	1	26	10	8	2	6
			県病							
			八戸	25	1	26	10	8	2	6
		岩手県			12	12	1	1	10	
		秋田県		1		1	1			
R2	出動県	青森県	(計)	24	5	29	11	12	3	3
			県病		5	5	3	1		1
			八戸	24		24	8	11	3	2
		岩手県			8	8	1	4	3	
		秋田県								
R3	出動県	青森県	(計)	25		25	7	7	7	4
			県病							
			八戸	25		25	7	7	7	4
		岩手県			11	11	1		10	
		秋田県	1		1					1
合計	出動県	青森県	(計)	183	19	202	84	67	24	27
			県病		17	17	9	5	1	2
			八戸	183	2	185	75	62	23	25
		岩手県	3	119	122	22	10	88	2	
		秋田県	1	3	4	3			1	

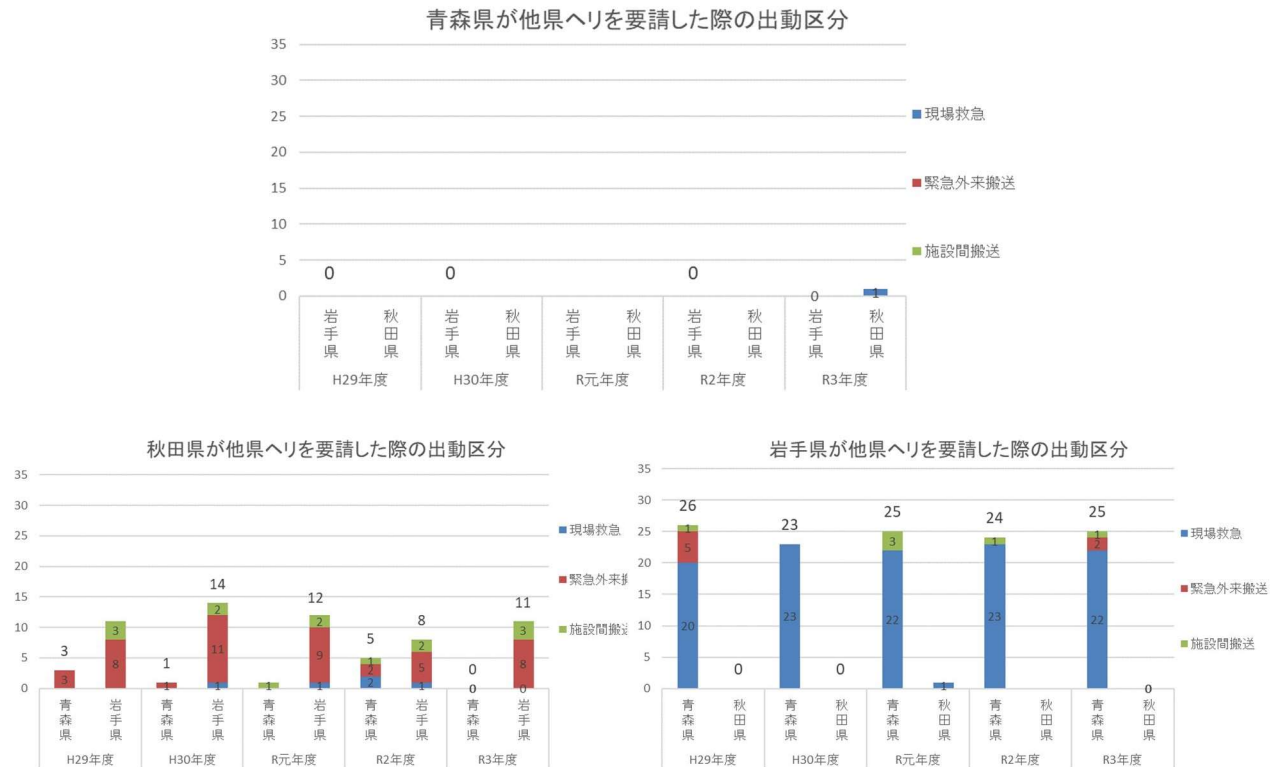
【図表 1-5-2】 北東北 3 県ドクターヘリの広域連携出動件数

(単位：件)



【図表 1-5-3】 北東北 3 県ドクターヘリの広域連携出動件数

(単位：件)

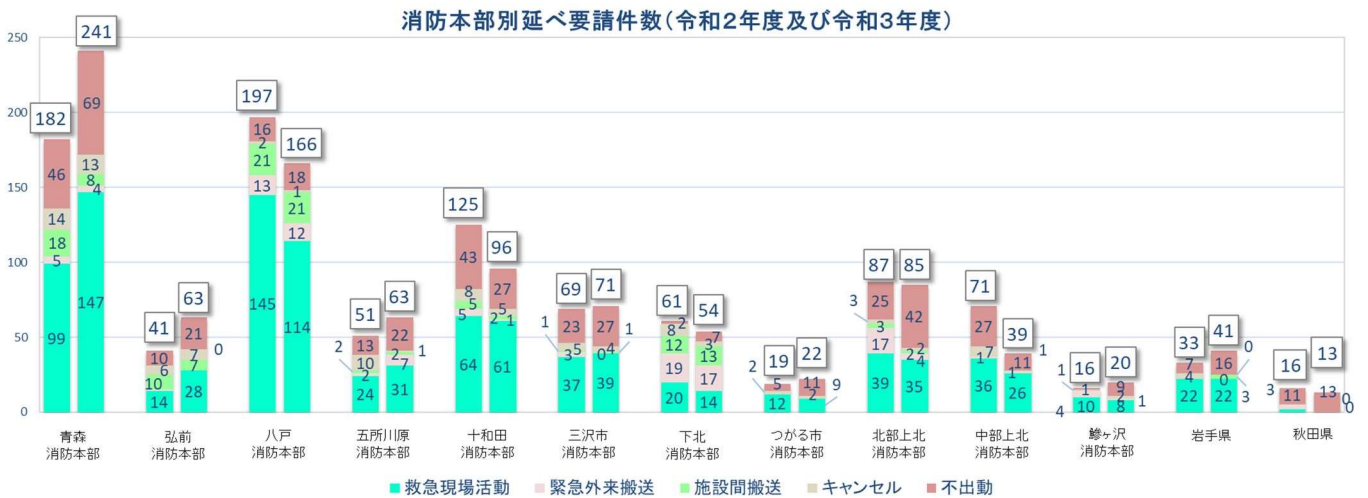


【参考】令和3年度消防本部別延べ要請件数

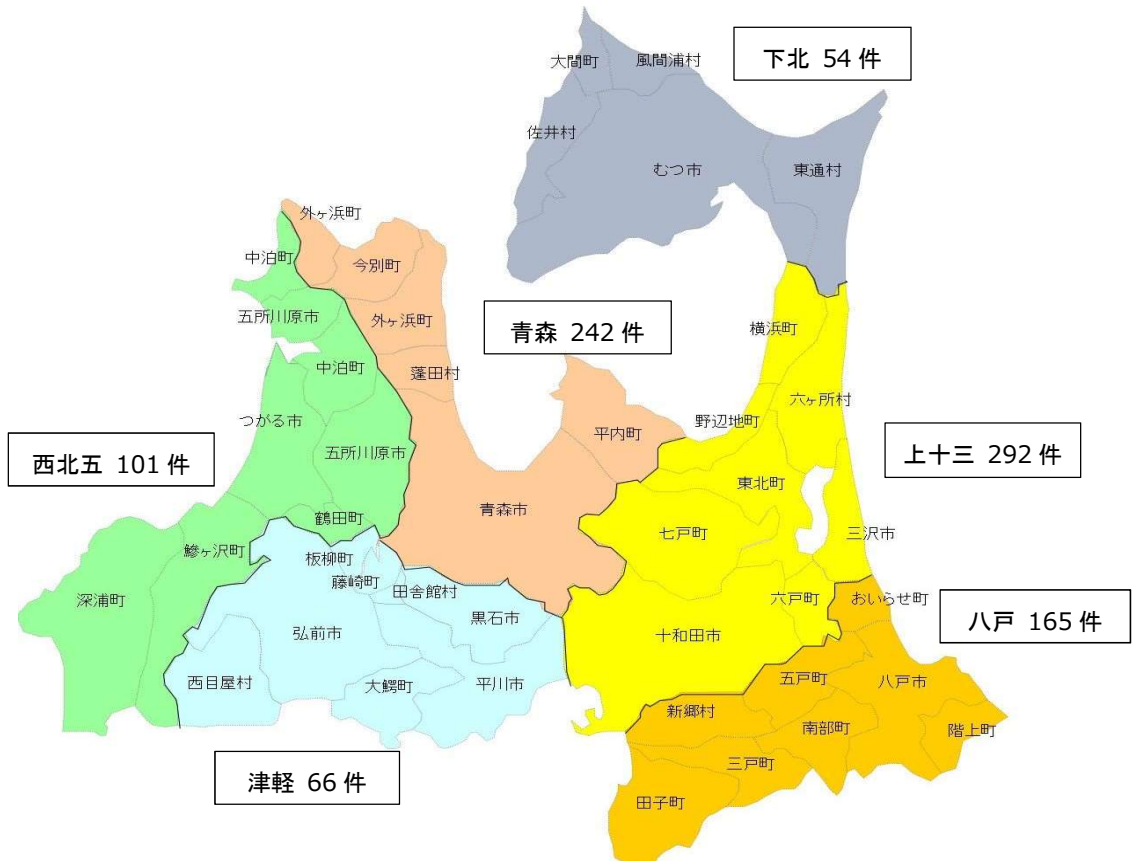
(単位：件)

	青森 消防本部	弘前 消防本部	八戸 消防本部	五所川原 消防本部	十和田 消防本部	三沢市 消防本部	下北 消防本部	つがる市 消防本部	北部上北 消防本部	中部上北 消防本部	鱒ヶ沢 消防本部	岩手県	秋田県	合計
救急現場活動	147	28	114	31	61	39	14	9	35	26	8	22	0	534
緊急外来搬送	4	0	12	7	1	0	17	0	4	1	1	0	0	47
施設間搬送	8	7	21	2	2	1	13	0	2	0	0	3	0	59
キャンセル	13	7	1	1	5	4	3	2	2	1	2	0	0	41
不出動	69	21	18	22	27	27	7	11	42	11	9	16	13	293
合計	241	63	166	63	96	71	54	22	85	39	20	41	13	974

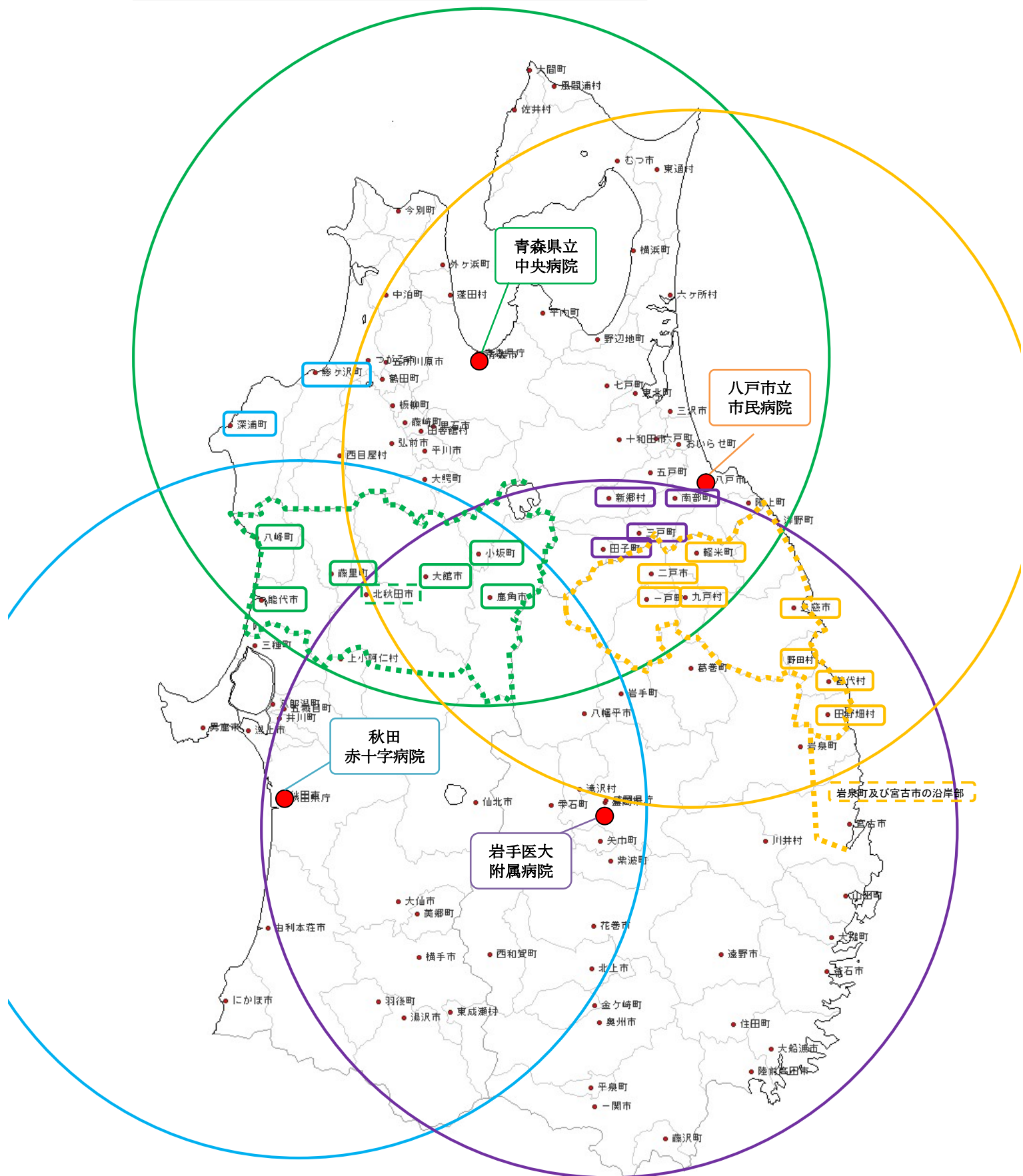
(単位：件)



【参考】令和3年度二次保健医療圏別延べ要請件数



北東北3県ドクターヘリ基地病院からの半径100km圏





## 令和3年度の運航実績の報告 (施設間搬送及び離陸前後キャンセルは除く) (P. 17~29)

### ○市町村別出動件数 (P. 17)

- ・ 地域別にみると、人口千人当たりの出動件数は、全体的にみると八戸地域、上十三地域、下北地域及び津軽半島東部の一部町村などで高くなっている。その理由として、地域の医療事情により、受け入れ可能な二次・三次救急医療を提供する医療機関までの搬送距離が長いこと、ドクターヘリでの搬送が効果的な事案が多いことが考えられる。

### ○ドクターヘリの出動に係る傷病者の搬送方法 (P. 18~19)

- ・ 令和3年度の県病ヘリの傷病者の出動事案について、傷病者の搬送をドクターヘリで行った件数は219件で、前年度より27件増加し、搬送方法のうちの74.0%を占めている。  
実際の搬送を救急車で行った件数は31件で、前年度より15件増加、ドクターカー方式(医師が救急車に同乗して医療機関へ搬送する方法)は46件で9件増加している。
- ・ 令和3年度の八戸ヘリの傷病者の出動事案について、傷病者の搬送をドクターヘリで行った件数は211件で、前年度より97件減少した。搬送方法に占める割合も前年度から13.4%低下した。  
一方、搬送を救急車またはドクターカー方式で行ったケースは、件数、割合とも増加、上昇した。
- ・ これらの要因としては、発熱などの新型コロナウイルス感染症の疑いがある傷病者は救急車搬送とする運用としたこと、天候等不良等によるドクターヘリ出動不可及びドクターカーへの対応変更などが考えられ、特に八戸ヘリにおいてその影響が顕著に見られる。

### ○ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関 (P. 20~23)

- ・ 県病ヘリ及び八戸ヘリとも、搬送先については基地病院への搬送が最も多い。これは基地病院が救命救急センターであり、受入体制が整っていることや、ドクターヘリとしても次の出動に備えて早急に整備・給油する必要があることから、基地病院へ搬送することが効率の面からも良いためと考えられる。

### ○覚知から医療機関搬送までの時間 (P. 28~29)

- ・ 県病ヘリ及び八戸ヘリとも、現場でコロナ抗原検査を行い、陰性を確認してからドクターヘリ搬送を行っているため、現場滞在時間が延びている。

### ○ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類 (P. 24~27)

- ・ ドクターヘリの疾患別件数では、県病ヘリ及び八戸ヘリとも脳卒中をはじめとする中枢神経系疾患の割合が高い。その要因として、本県はいわゆる生活習慣病の割合が高いこと、脳卒中に関する症状や早期治療介入が必要なことが救急隊に浸透したこと、ドクターヘリを要請するためのキーワードとして症状が比較的わかりやすいことが挙げられる。

○覚知から医療機関搬送までの時間（P. 28～29）

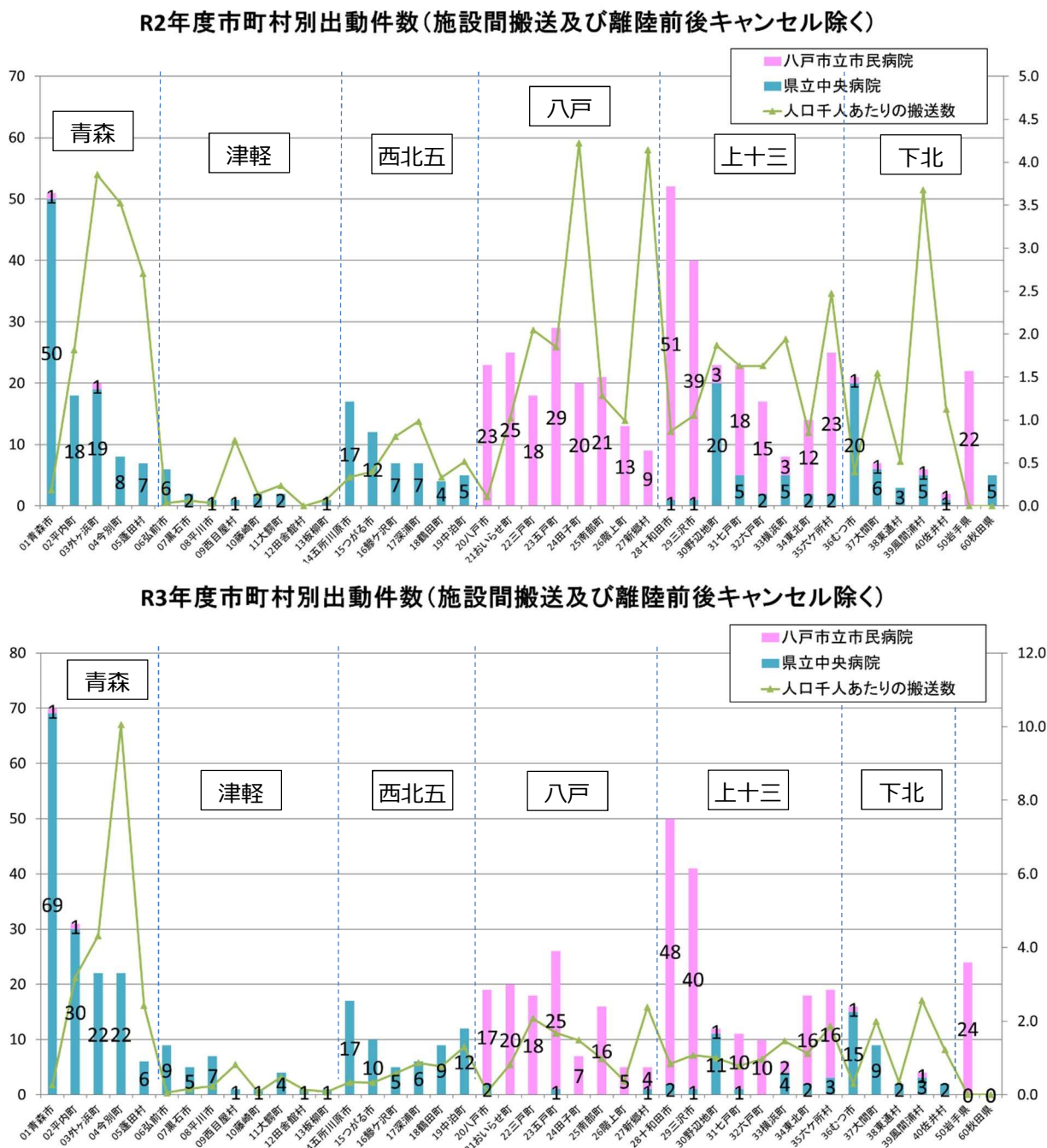
- ・ 覚知から要請までの平均時間は12～13分程度である。
- ・ 県病へり及び八戸へりの要請から出動までの平均時間は7分程度である。
- ・ 県病へり及び八戸へりの覚知から現場到着までの平均時間は30～33分程度である。
- ・ 県病へり及び八戸へりの覚知から医療機関搬送までの平均時間は、62分程度である。
- ・ 出動から現場までの到着時間や現場から医療機関までの平均搬送時間は、事案発生場所から医療機関までの距離のほかに天候、運航経路など外部的な要因に左右されることが多い。
- ・ 県病へりにおける八戸地域への出動などは、年度により平均滞在時間の変動が大きいが、これは出動件数が少なく、個別事案の滞在時間による影響が大きいためである。

## 2 令和3年度の運航実績の報告 (施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

### (1) 市町村別出動件数

市町村別の出動件数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は、図表2-1-1のとおりである。

【図表2-1-1】 市町村別出動件数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）



※分析データは、要請内容の詳細を把握している基地病院のデータを用いており、総数及び区分などについては、「1 運航状況全体に関する検証」と一致しない場合がある。

(2) ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法

(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

a 県病ドクターヘリ

県病ドクターヘリ出動の際の、実際に傷病者を搬送した方法(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)については、図表2-2-1及び2-2-2のとおりである。

令和3年度の救急車で搬送は31件で、前年度より15件増加し、ドクターカー方式(※)での搬送は46件で、前年度より9件減少している。

※ドクターカー方式：医師が救急車に同乗して傷病者を医療機関へ搬送する方法。

なお、救急車は主に救急隊(看護師が同乗する場合も含む)が傷病者を医療機関へ搬送。

【図表2-2-1】県病ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法(表)

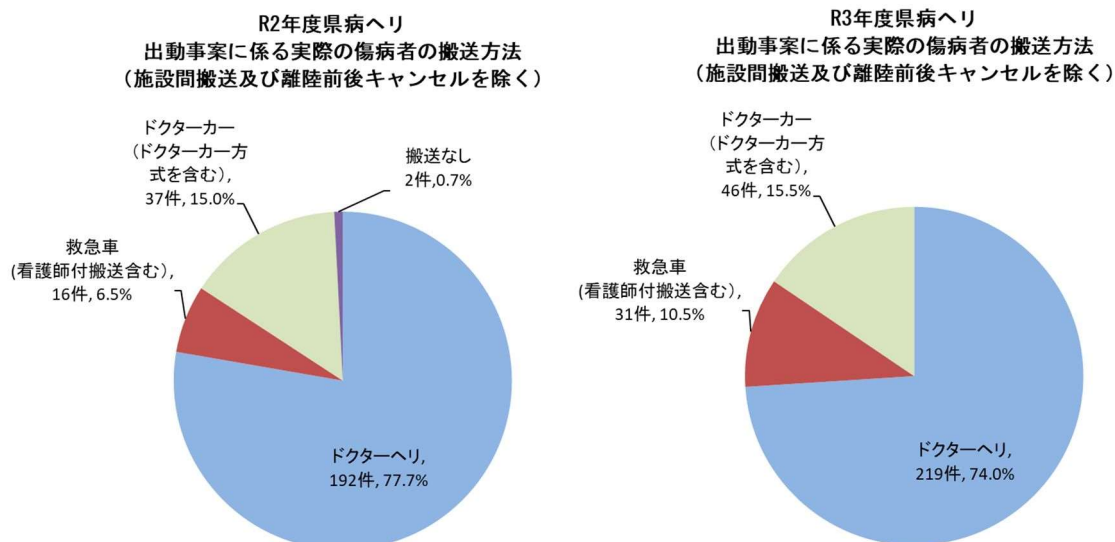
令和2年度県病ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	合計
ドクターヘリ	77	9	41	0	33	29	3	192件
救急車 (看護師付搬送含む)	3	4	3	0	2	3	1	16件
ドクターカー (ドクターカー方式を含む)	21	2	8	0	3	2	1	37件
搬送なし	1	0	0	0	0	1	0	2件
合計	102件	15件	52件	0件	38件	35件	5件	247件

令和3年度県病ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	合計
ドクターヘリ	109	17	45	4	19	25	0	219件
救急車 (看護師付搬送含む)	13	4	8	0	2	4	0	31件
ドクターカー (ドクターカー方式を含む)	27	8	6	0	3	2	0	46件
合計	149件	29件	59件	4件	24件	31件	0件	296件

【図表2-2-2】県病ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法(グラフ)



## b 八戸ドクターヘリ

八戸ドクターヘリ出動の際の、実際に傷病者を搬送した方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）については、図表2-2-3及び2-2-4のとおりである。

令和3年度の八戸ドクターヘリ出動事案のうち、74.6%がドクターヘリでの搬送となっている。

なお、八戸市立市民病院は、ドクターヘリの出動と同時にドクターカーを出動させる場合もあるとのことである。

【図表2-2-3】 八戸ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（表）

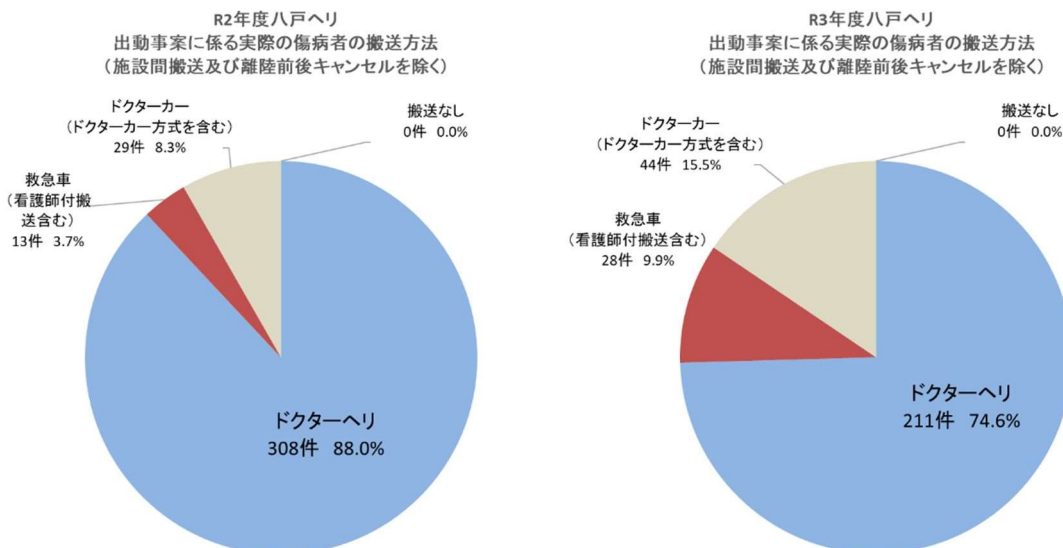
令和2年度八戸ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
ドクターヘリ	2	0	0	136	145	4	21	0	308件
救急車 （看護師付搬送含む）	0	0	0	7	5	0	1	0	13件
ドクターカー （ドクターカー方式を含む）	0	0	0	15	14	0	0	0	29件
搬送なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
合計	2件	0件	0件	158件	164件	4件	22件	0件	350件

令和3年度八戸ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
ドクターヘリ	1	0	0	92	100	2	16	0	211件
救急車 （看護師付搬送含む）	0	0	0	3	19	0	6	0	28件
ドクターカー （ドクターカー方式を含む）	1	0	0	17	24	0	2	0	44件
搬送なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
合計	2件	0件	0件	112件	143件	2件	24件	0件	283件

【図表2-2-4】 八戸ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（グラフ）



(3) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

a 県病ヘリ

県病ドクターヘリの出動に係る傷病者の搬送先医療機関は、図表2-3-1から2-3-2のとおりである。

県病ヘリの搬送先医療機関は基地病院である青森県立中央病院が多く、次いで弘前大学医学部附属病院、つがる総合病院が多くなっている。

【図表2-3-1】 県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(表)

令和2年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

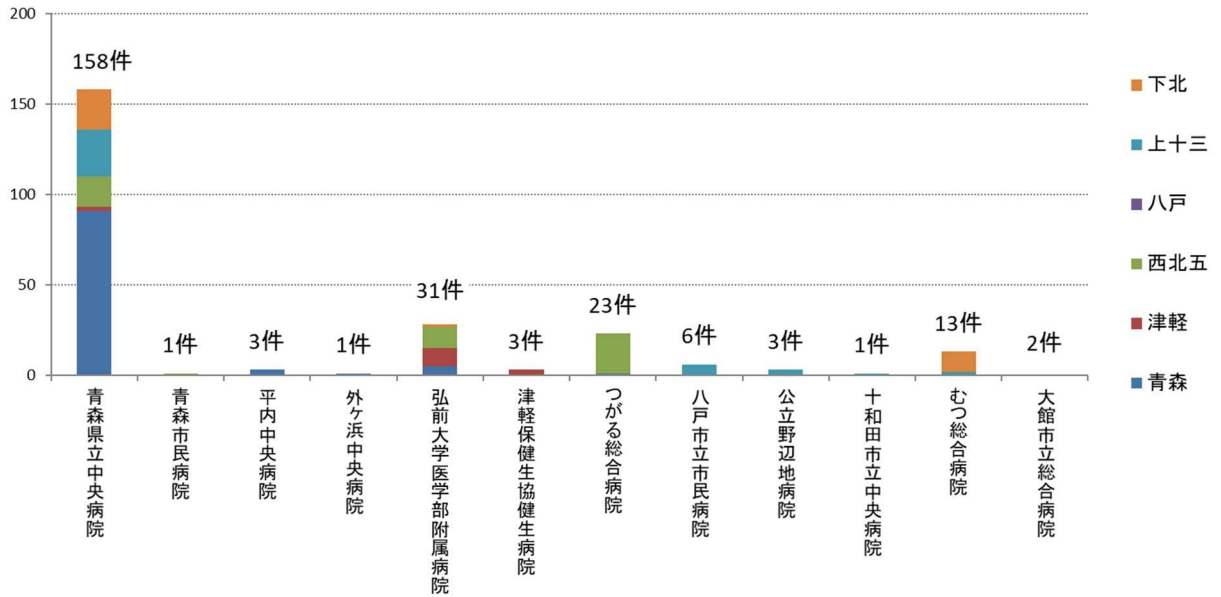
	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田県	合計
青森県立中央病院	91	2	17		26	22		158件
青森市民病院			1					1件
平内中央病院	3							3件
外ヶ浜中央病院	1							1件
弘前大学医学部附属病院	5	10	12			1	3	31件
津軽保健生協健生病院		3						3件
つがる総合病院	1		22					23件
八戸市立市民病院					6			6件
公立野辺地病院					3			3件
十和田市立中央病院					1			1件
むつ総合病院					2	11		13件
大館市立総合病院							2	2件
合計	101件	15件	52件	0件	38件	34件	5件	245件

令和3年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

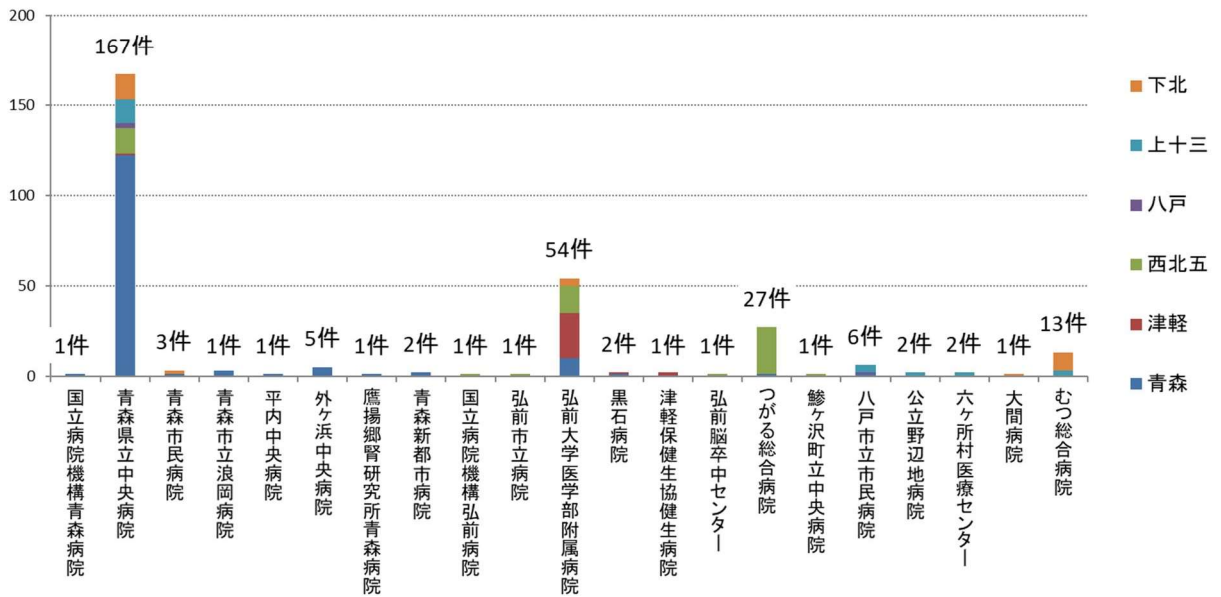
	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田県	合計
国立病院機構青森病院	1							1件
青森県立中央病院	122	1	14	3	13	14		167件
青森市民病院	1					2		3件
青森市立浪岡病院	3							1件
平内中央病院	1							1件
外ヶ浜中央病院	5							5件
鷹揚郷腎研究所青森病院	1							1件
青森新都市病院	2							2件
国立病院機構弘前病院			1					1件
弘前市立病院			1					1件
弘前大学医学部附属病院	10	25	15			4		54件
黒石病院	1	1						2件
津軽保健生協健生病院		2						1件
弘前脳卒中センター			1					1件
つがる総合病院	1		26					27件
鱒ヶ沢町立中央病院			1					1件
八戸市立市民病院	1			1	4			6件
公立野辺地病院					2			2件
六ヶ所村医療センター					2			2件
大間病院						1		1件
むつ総合病院					3	10		13件
合計	149件	29件	59件	4件	24件	31件		296件

【図表 2-3-2】 県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関（グラフ）

R2年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関  
（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）



R3年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関  
（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）



b 八戸ヘリ

八戸ドクターヘリの出動に係る傷病者の搬送先医療機関は、図表2-3-3から2-3-4とおりでである。

八戸ヘリの搬送先医療機関は、基地病院である八戸市立市民病院が最も多く、次いで十和田市立中央病院、県立中央病院となっている。

【図表2-3-3】 八戸ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関（表）

令和2年度八戸ヘリ\_出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

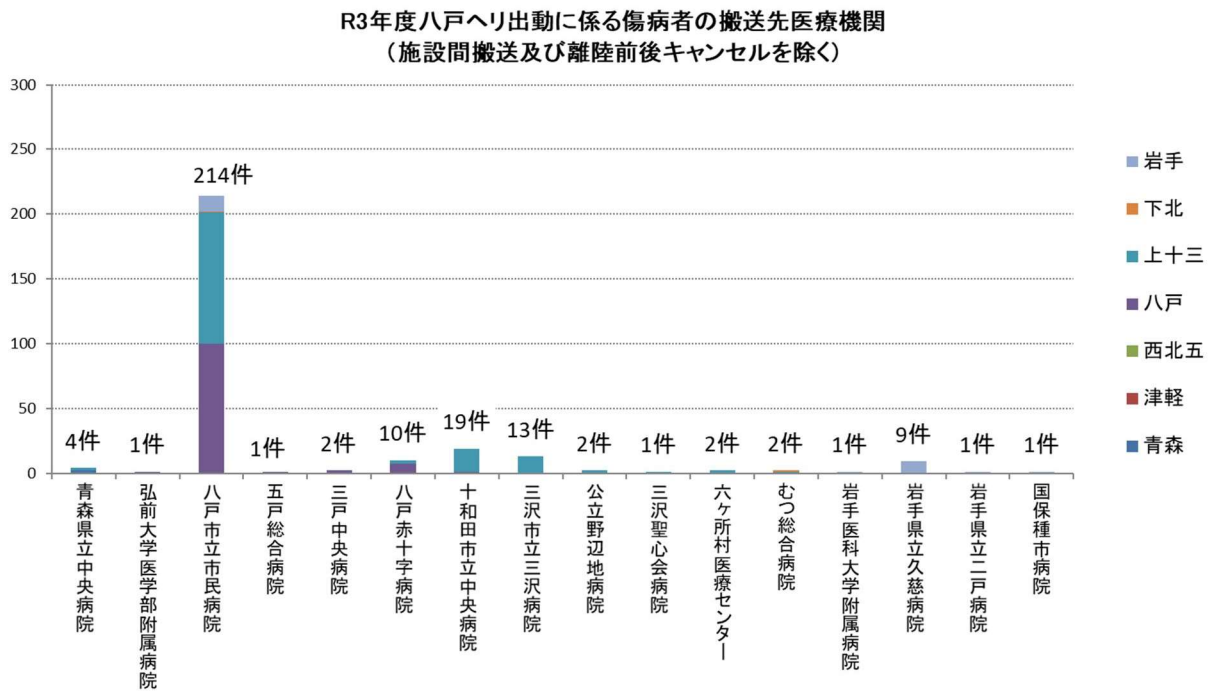
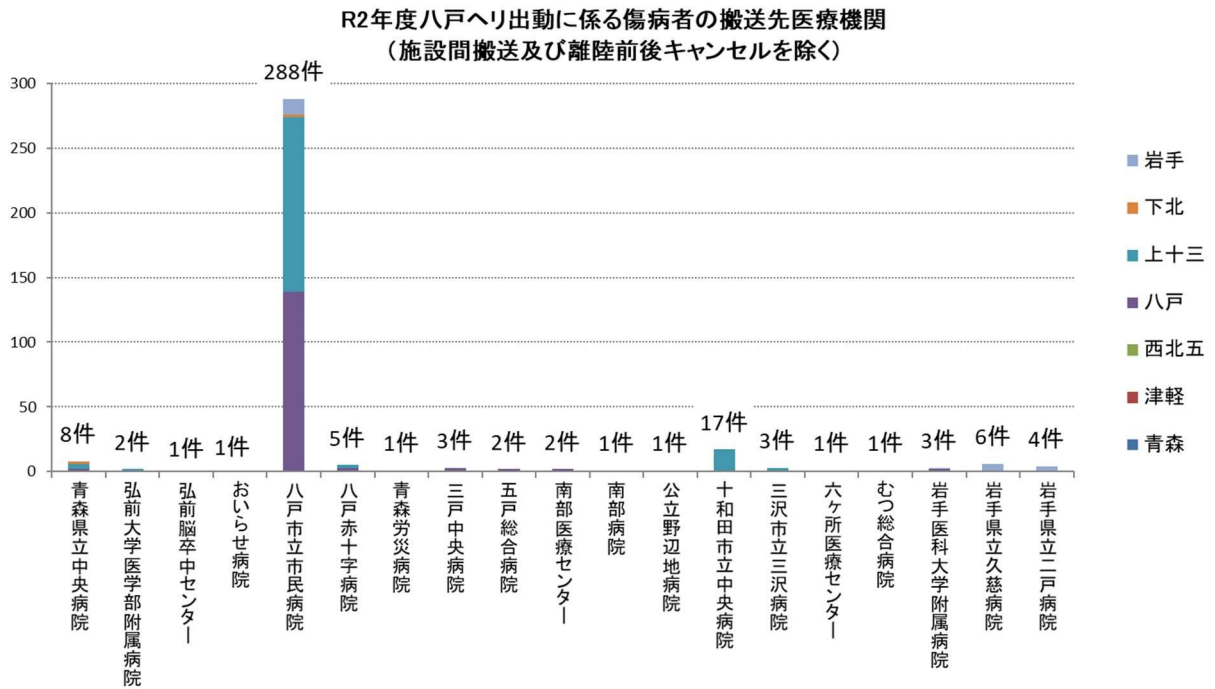
	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
青森県立中央病院	1			1	4	2			8件
弘前大学医学部附属病院				1	1				2件
弘前脳卒中センター	1								1件
おいらせ病院				1					1件
八戸市立市民病院				139	135	2	12		288件
八戸赤十字病院				3	2				5件
青森労災病院					1				1件
三戸中央病院				3					3件
五戸総合病院				2					2件
南部医療センター				2					2件
南部病院				1					1件
公立野辺地病院					1				1件
十和田市立中央病院				1	16				17件
三沢市立三沢病院				1	2				3件
六ヶ所医療センター					1				1件
むつ総合病院					1				1件
岩手医科大学附属病院				2			1		3件
岩手県立久慈病院							6		6件
岩手県立二戸病院				1			3		4件
合計	2件			158件	164件	4件	22件		350件

令和3年度八戸ヘリ\_出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
青森県立中央病院	2				2				4件
弘前大学医学部附属病院				1					1件
八戸市立市民病院				100	101	1	12		214件
五戸総合病院				1					1件
三戸中央病院				2					2件
八戸赤十字病院				7	3				10件
十和田市立中央病院				1	18				19件
三沢市立三沢病院					13				13件
公立野辺地病院					2				2件
三沢聖心会病院					1				1件
六ヶ所村医療センター					2				2件
むつ総合病院					1	1			2件
岩手医科大学附属病院							1		1件
岩手県立久慈病院							9		9件
岩手県立二戸病院							1		1件
国保種市病院							1		1件
合計	2件			112件	143件	2件	24件		283件



【図表 2-3-4】 八戸へり出動に係る傷病者の搬送先医療機関（グラフ）



(4) ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類

a 県病ヘリ

県病ヘリが出動した際の傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は図表2-4-1から2-4-2のとおりである。

中枢神経系疾患の件数が最多となっており、疾患分類の全体的な傾向に大きな変化はない。

【図表2-4-1】県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（表）

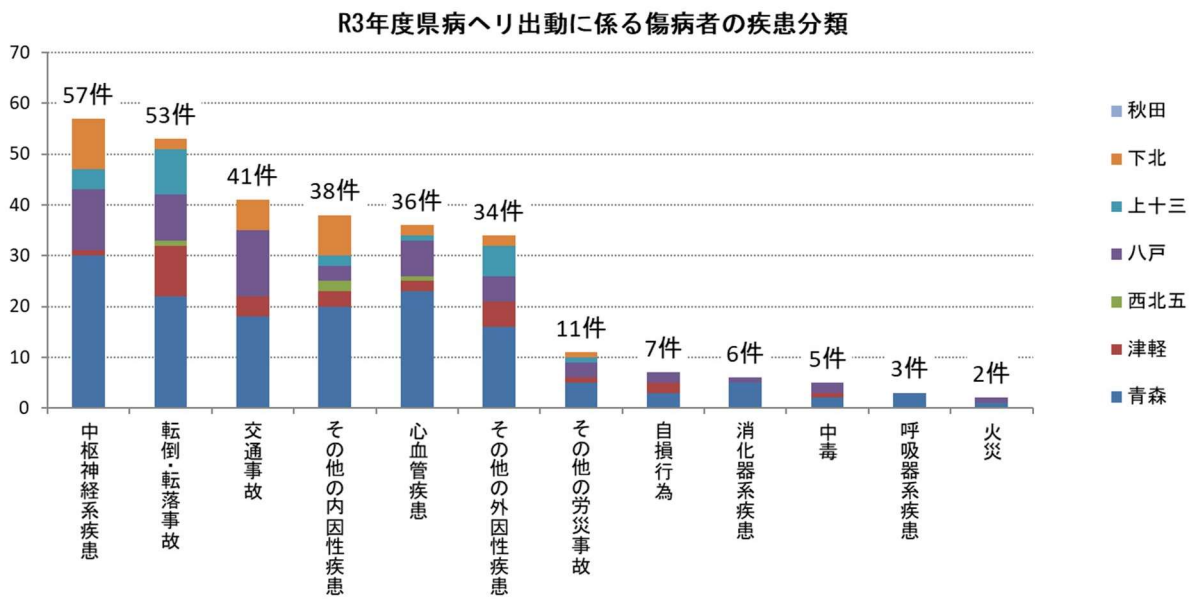
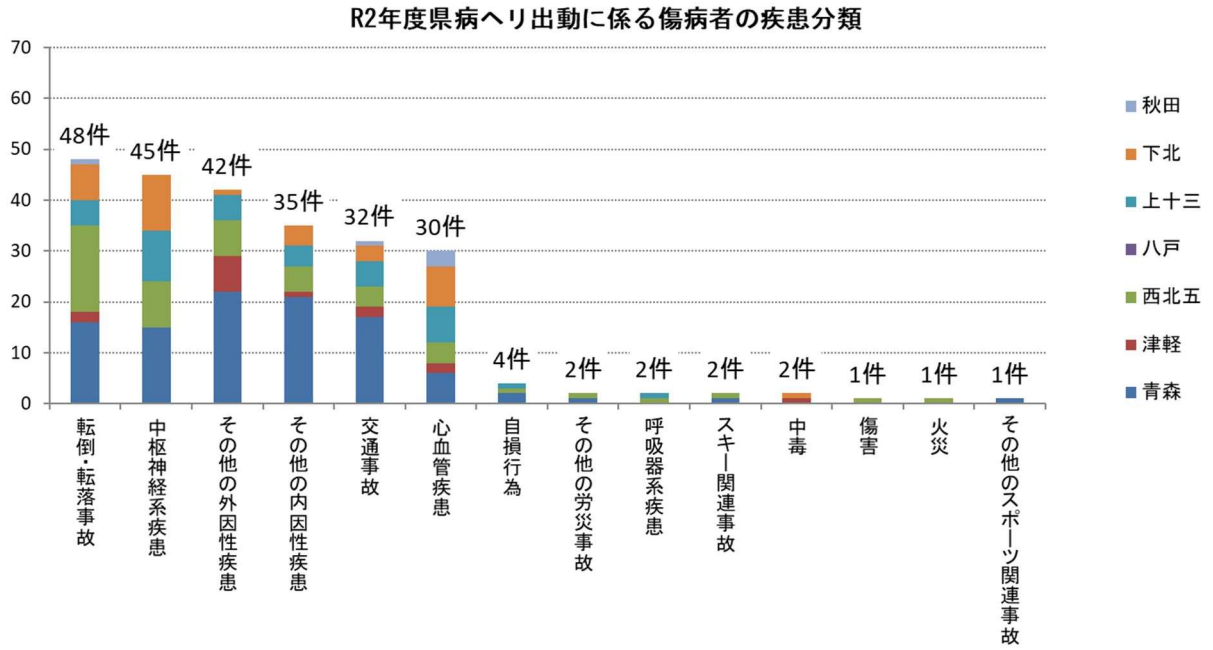
令和2年度県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	総計
転倒・転落事故	16	2	17		5	7	1	48件
中枢神経系疾患	15		9		10	11		45件
その他の外因性疾患	22	7	7		5	1		42件
その他の内因性疾患	21	1	5		4	4		35件
交通事故	17	2	4		5	3	1	32件
心血管疾患	6	2	4		7	8	3	30件
自損行為	2		1		1			4件
その他の労災事故	1		1					2件
呼吸器系疾患			1		1			2件
スキー関連事故	1		1					2件
中毒		1				1		2件
傷害			1					1件
火災			1					1件
その他のスポーツ関連事故	1							1件
総計	86件	13件	35件	0件	33件	28件	4件	247件

令和3年度県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	総計	増減
中枢神経系疾患	30	1		12	4	10		57件	12
転倒・転落事故	22	10	1	9	9	2		53件	5
交通事故	18	4		13		6		41件	9
その他の内因性疾患	20	3	2	3	2	8		38件	3
心血管疾患	23	2	1	7	1	2		36件	6
その他の外因性疾患	16	5		5	6	2		34件	△8
その他の労災事故	5	1		3	1	1		11件	9
自損行為	3	2		2				7件	3
消化器系疾患	5			1				6件	6
中毒	2	1		2				5件	3
呼吸器系疾患	3							3件	1
火災	1			1				2件	1
総計	118件	28件	4件	46件	19件	21件		293件	△47

【図表 2-4-2】 県病へり出動に係る傷病者の疾患分類（グラフ）



b 八戸ヘリ

八戸ヘリが搬送した傷病者の症例別事案数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は図表2-4-3から2-4-4のとおりである。

令和3年度は中枢神経系疾患の件数が最多で、全体の疾患分類の傾向に大きな変化はない。

【図表2-4-3】八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（表）

令和2年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）

（単位：件）

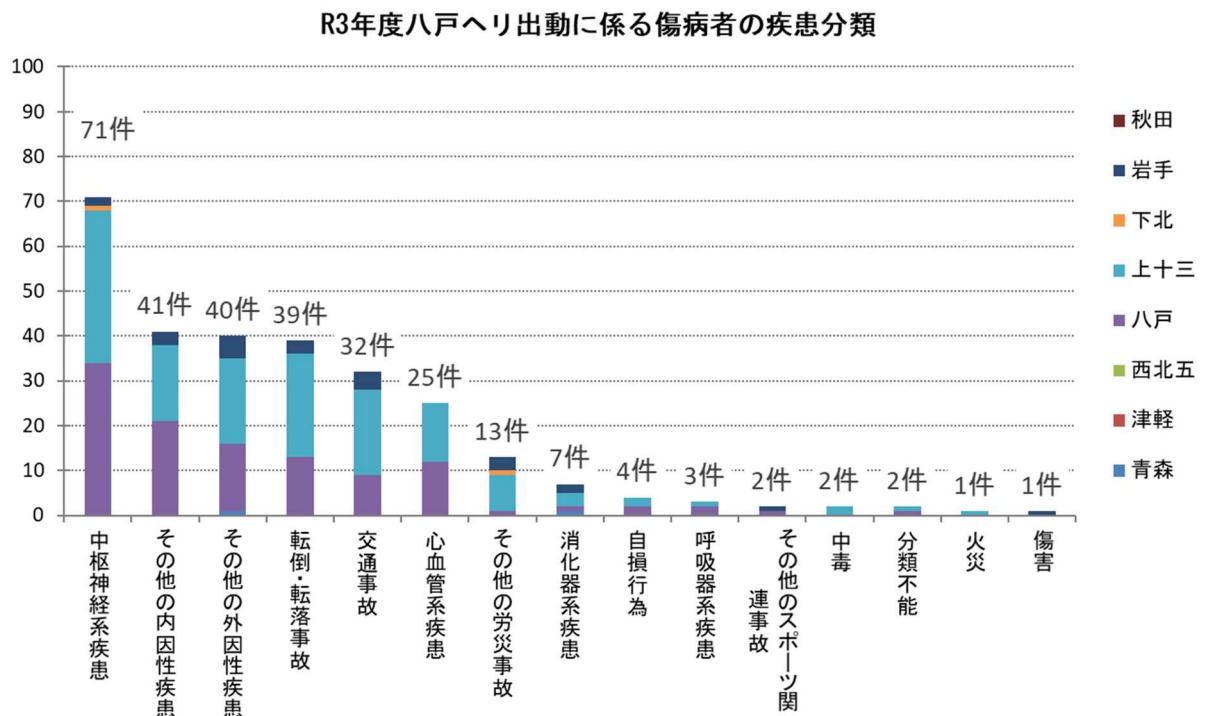
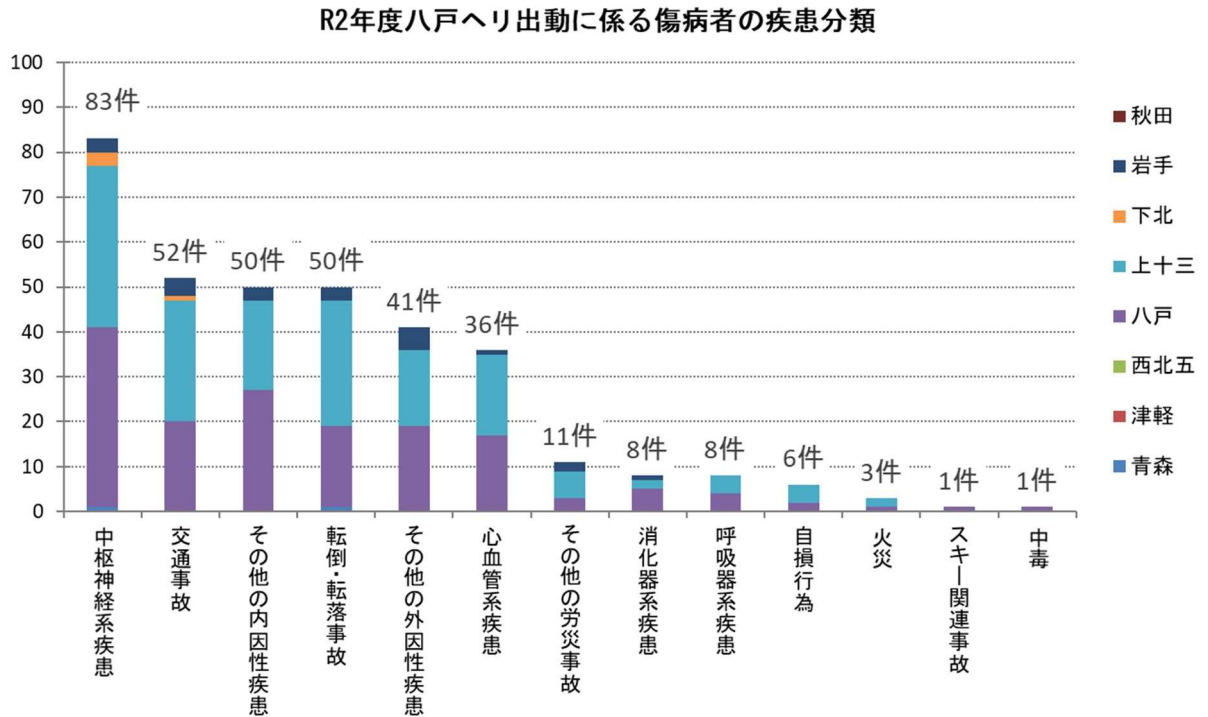
	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	総計
中枢神経系疾患	1			40	36	3	3		83件
交通事故				20	27	1	4		52件
その他の内因性疾患				27	20		3		50件
転倒・転落事故	1			18	28		3		50件
その他の外因性疾患				19	17		5		41件
心血管系疾患				17	18		1		36件
その他の労災事故				3	6		2		11件
消化器系疾患				5	2		1		8件
呼吸器系疾患				4	4				8件
自損行為				2	4				6件
火災				1	2				3件
スキー関連事故				1					1件
中毒				1					1件
総計	2件	0件	0件	158件	164件	4件	22件	0件	350件

令和3年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）

（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	総計	増減
中枢神経系疾患				34	34	1	2		71件	△ 12
その他の内因性疾患				21	17		3		41件	△ 9
その他の外因性疾患	1			15	19		5		40件	△ 1
転倒・転落事故				13	23		3		39件	△ 11
交通事故				9	19		4		32件	△ 20
心血管系疾患				12	13				25件	△ 11
その他の労災事故				1	8	1	3		13件	2
消化器系疾患	1			1	3		2		7件	△ 1
自損行為				2	2				4件	△ 2
呼吸器系疾患				2	1				3件	△ 5
その他のスポーツ関連事故				1			1		2件	2
中毒					2				2件	1
分類不能				1	1				2件	2
火災					1				1件	△ 2
傷害							1		1件	1
総計	2件			112件	143件	2件	24件		283件	△ 15

【図表 2-4-4】 八戸へり出動に係る傷病者の疾患分類（グラフ）

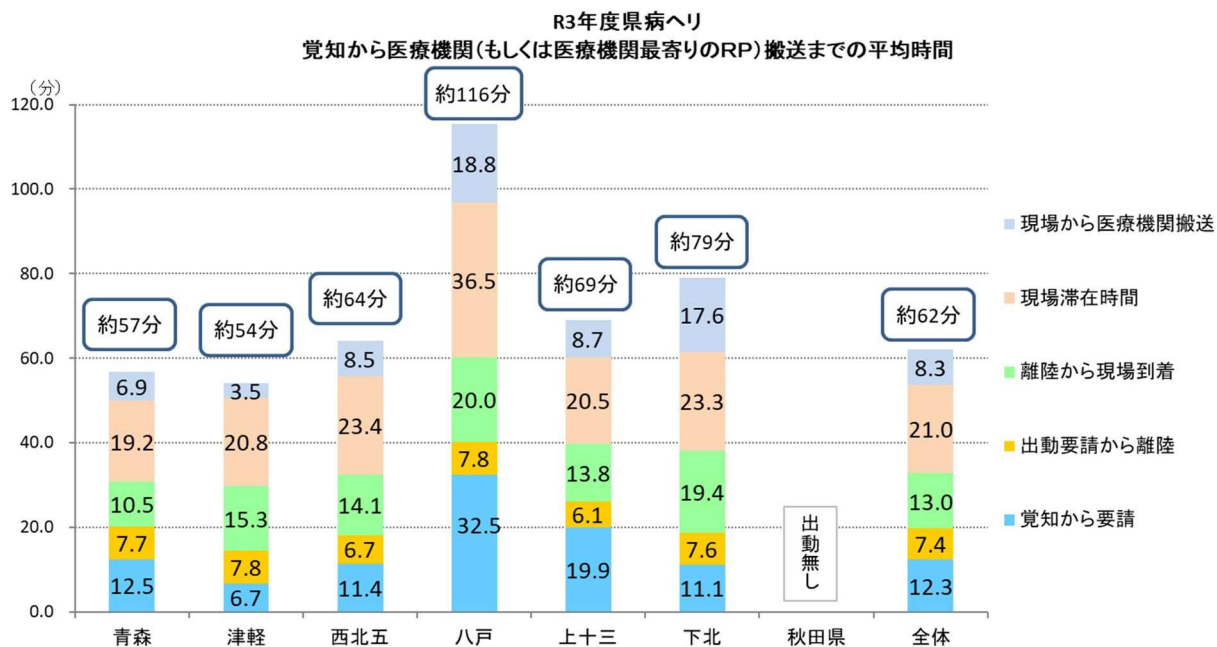
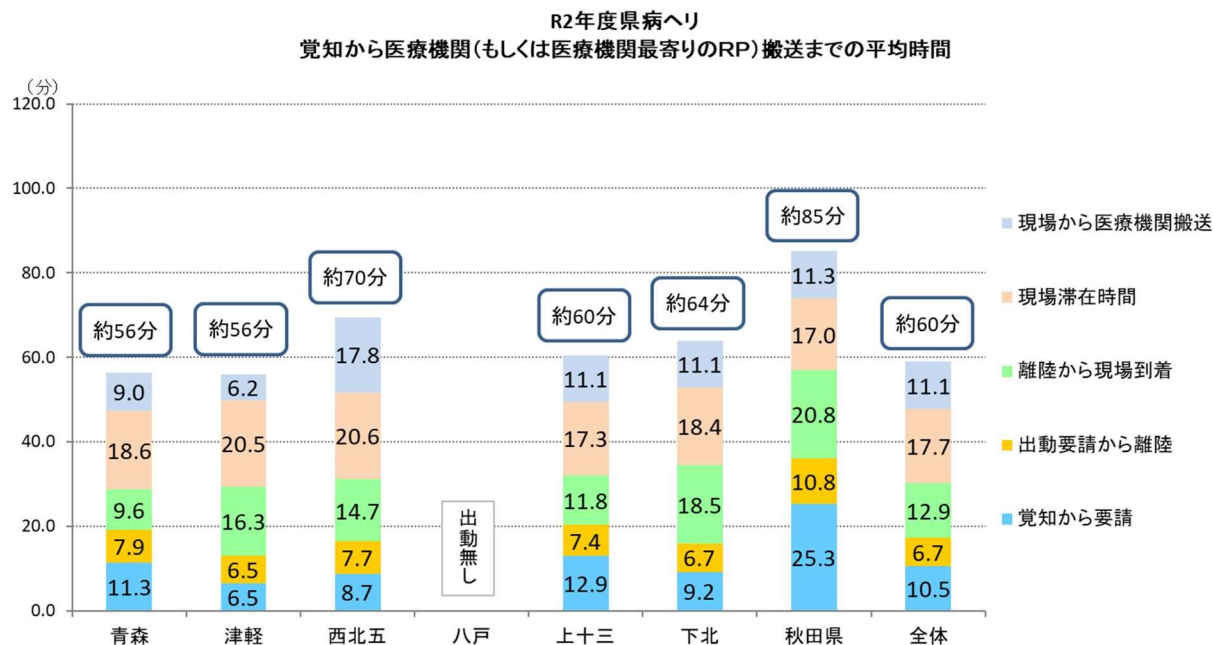


(5) 覚知から医療機関搬送までの時間

a 県病への覚知から医療機関搬送までの平均時間

消防機関の覚知から医療機関搬送までの時間については、図表2-5-1のとおりである。

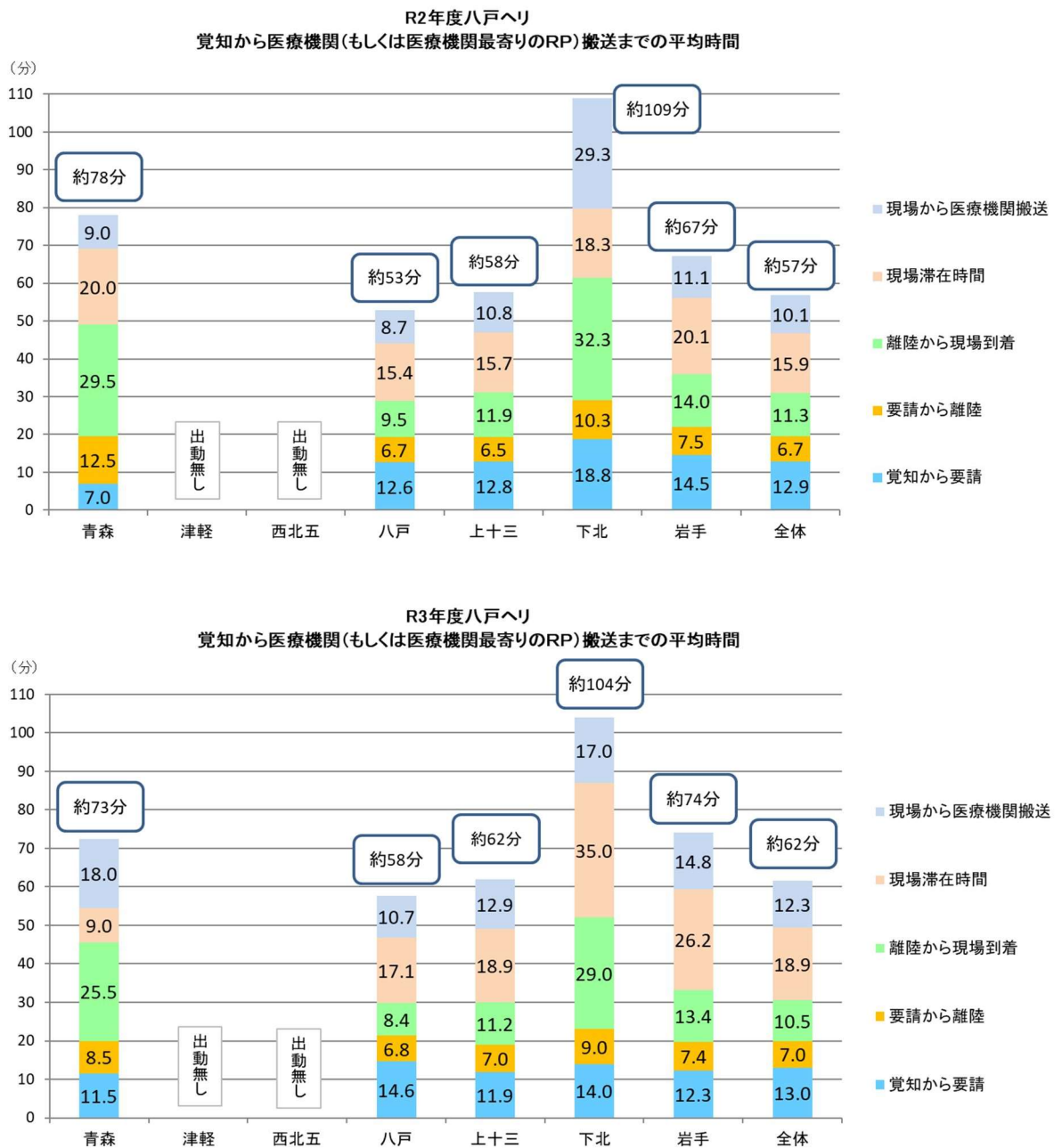
【図表2-5-1】県病への覚知から医療機関搬送までの平均時間



b 八戸への覚知から医療機関搬送までの平均時間

消防機関の覚知から医療機関搬送までの時間については、図表2-5-2のとおりである。

【図表2-5-2】八戸への覚知から医療機関搬送までの平均時間



## 令和3年度の施設間搬送の報告（P.31～34）

### ○施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（P.31～34）

- ・ 患者の搬送先医療機関として、県立中央病院、八戸市立市民病院及び弘前大学医学部附属病院が約8割を占めている。その要因として、この3病院が、県内の高次・専門医療機能を担っており、特に、弘前大学医学部附属病院は県内で唯一の高度救命救急センターであり、心臓外科や循環器内科などの専門的かつ高度な医療の提供体制が充実している医療機関であるためと考えられる。
- ・ また、地理的に青森県の中央部、東部、西部にそれぞれ位置し、ヘリポートを備えているため、周辺地域からの搬送時間が短くなることも考えられる。
- ・ 搬送患者の症例をみると、県病ヘリでは「心血管疾患」が最も多く、その次に「その他内因性疾患」が続いている。八戸ヘリでも「心血管疾患」が最も多く、その次に「その他の内因性疾患」が続いている。その要因として、これらの症例に対応可能な医療機関が県内で限られているためと考えられる。



### 3 令和3年度の施設間搬送に係る運航実績の報告

#### (1) 県病へリ

##### a 施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

県病へリの施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関は、図表3-1-1のとおりである。

搬送先医療機関は弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院が最多となっている。

【図表3-1-1】施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（県病へリ）

R2年度\_県病へリ  
施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（単位：件）

	搬送先医療機関										合計
	青森県立中央病院	弘前大学医学部附属病院	つがる総合病院	八戸市立市民病院	十和田市立中央病院	三沢市立三沢病院	むつ総合病院	大間病院	大館市立総合病院	市立函館病院	
青森県立中央病院		9		7				1		1	18件
弘前大学医学部附属病院	1		1	1	1		1		2		7件
黒石病院						1	1				2件
つがる総合病院		1									1件
八戸市立市民病院	2	1									3件
青森労災病院	1										1件
三沢市立三沢病院				1							1件
公立野辺地病院	3										3件
むつ総合病院	6	4									10件
大間病院	2										2件
合計	15件	15件	1件	9件	1件	1件	2件	1件	2件	1件	48件

R3年度\_県病へリ  
施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（単位：件）

	搬送先医療機関						合計
	青森県立中央病院	弘前大学医学部附属病院	つがる総合病院	八戸市立市民病院	むつ総合病院	十和田市立中央病院	
青森県立中央病院		4		3		1	8件
弘前大学医学部附属病院	2		3		1		6件
つがる総合病院		2					2件
八戸市立市民病院	1						1件
六ヶ所村医療センター	1						1件
むつ総合病院	7	4					11件
大間病院	1						1件
合計	12件	10件	3件	3件	1件	1件	30件

b 施設間搬送患者の症例

県病への施設間搬送患者の症例は、図表3-1-2のとおりである。

「心血管疾患」が最も多く、その次に「その他の内因性疾患」が続いている。

【図表3-1-2】施設間搬送患者の症例（県病へリ）

R2年度県病へリ  
施設間搬送患者の症例

(単位:件)

		その他の 内因性 疾患	心血管 疾患	中枢神経 系疾患	その他の 外因性 疾患	転倒・転落 事故	消火器系 疾患	火災	呼吸器系 疾患	合計
依 頼 元 医 療 機 関	青森県立中央病院	10	3	1	2	1		1		18件
	弘前大学医学部附属病院	3	1	1		1	1			7件
	黒石病院	2								2件
	つがる総合病院		1							1件
	八戸市立市民病院	3								3件
	青森労災病院	1								1件
	三沢市立三沢病院						1			1件
	公立野辺地病院		3							3件
	むつ総合病院	2	3	3	1	1				10件
	大間病院	1							1	2件
合計		22件	11件	5件	3件	3件	2件	1件	1件	48件

R3年度県病へリ  
施設間搬送患者の症例 (単位:件)

		心血管疾 患	その他の 内因性疾 患	火災	中枢神経 系疾患	消化器系 疾患	転倒・転落 事故	自損行為	中毒	合計
依 頼 元 医 療 機 関	青森県立中央病院	4	3		1					8件
	弘前大学医学部附属病院		1	2			1	1	1	6件
	つがる総合病院	2								2件
	八戸市立市民病院		1							1件
	六ヶ所村医療センター		1							1件
	むつ総合病院	5	3	1	1	1				11件
	大間病院		1							1件
合計		11件	10件	3件	2件	1件	1件	1件	1件	30件

(2) 八戸へリ

a 施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

八戸へリの施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関は、図表3-2-1のとおりである。

搬送先医療機関は、八戸市立市民病院が最も多く、次いで弘前大学医学部附属病院となっている。

【図表3-2-1】施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

R2年度八戸へリ  
 転院搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関 (単位:件)

		搬送先医療機関					合計
		青森県立中央病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	岩手医科大学附属病院	岩手医科大学附属循環器医療センター	
依頼元医療機関	黒石病院			1			1件
	つがる総合病院		1				1件
	八戸市立市民病院	1	7		1	1	11件
	八戸赤十字病院		1				1件
	五戸総合病院			1			1件
	南部医療センター			1			1件
	南部病院			1			1件
	十和田市立中央病院			4			4件
	十和田済誠会病院			1			1件
	三戸中央病院			2			2件
	合計	1件	9件	11件	1件	1件	24件

R3年度八戸へリ  
 転院搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関 (単位:件)

		搬送先医療機関				合計
		青森県立中央病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	岩手医科大学附属病院	
依頼元医療機関	はまなす医療療育センター		1			1件
	八戸市立市民病院		7	1	7	15件
	五戸総合病院			5		5件
	三戸中央病院			4		4件
	八戸赤十字病院				2	2件
	八戸平和病院		1			1件
	十和田市立中央病院			1		1件
	公立七戸病院			1		1件
	三沢市立三沢病院		1			1件
	三沢中央病院			1		1件
	六ヶ所医療センター			3		3件
	むつ総合病院	1				1件
	岩手県立久慈病院		1	2		3件
合計	1件	11件	18件	9件	39件	

b 施設間搬送患者の症例

八戸への施設間搬送患者の症例は、図表3-2-2のとおりである。

「心血管疾患」が最も多く、その次に「その他の内因性疾患」が続いている。

【図表3-2-2】施設間搬送患者の症例

R2年度\_八戸へり  
施設間搬送患者の症例 (単位:件)

		心血管系疾患	消化器系疾患	中枢神経系疾患	その他の外因性疾患	その他の内因性疾患	合計
依頼元医療機関	黒石病院		1				1件
	つがる総合病院	1					1件
	八戸市立市民病院	5	1	1	1	3	11件
	八戸赤十字病院	1					1件
	五戸総合病院		1				1件
	南部医療センター		1				1件
	南部病院					1	1件
	十和田市立中央病院	1	1			2	4件
	十和田済誠会病院		1				1件
	三戸中央病院	1				1	2件
合計		9件	6件	1件	1件	7件	24件

R3年度\_八戸へり  
施設間搬送患者の症例 (単位:件)

		心血管系疾患	その他の内因性疾患	中枢神経系疾患	その他の労災事故	交通事故	消化器系疾患	その他の外因性疾患	合計
依頼元医療機関	はまなす医療療育センター		1						1件
	八戸市立市民病院	7	4		2		1	1	15件
	五戸総合病院	4		1					5件
	三戸中央病院	2		2					4件
	八戸赤十字病院	1					1		2件
	八戸平和病院		1						1件
	十和田市立中央病院	1							1件
	公立七戸病院	1							1件
	三沢市立三沢病院		1						1件
	三沢中央病院	1							1件
	六ヶ所医療センター			2		1			3件
	むつ総合病院	1							1件
	岩手県立久慈病院	3							3件
合計		21件	7件	5件	2件	1件	2件	1件	39件

## 2 機体制効果の報告（P. 36）

### ○ 2 機体制の効果（P. 36）

- ・ 本県は、平成 24 年 10 月から県立中央病院及び八戸市立市民病院を基地病院とした 2 機体制での運用を開始し、1 機体制では対応できなかった事案にも対応できるようになった。
- ・ 「2 機体制による効果」として捉えられる事案は、次の場合となる。
  - （1）一方のドクターヘリが他事案対応中に、新たな要請事案があり、もう一方が対応した場合
    - ① 2 機同時に出動していた事案
    - ② 第 1 病院が出動中のため第 2 病院が出動した事案
  - （2）一方のドクターヘリが天候不良で対応できない場合で、もう一方が対応した場合
  - （3）一方のドクターヘリが（1）、（2）以外の何らかの理由で対応できなかった場合で、もう一方が対応した場合
- ・ 「2 機体制による効果」として捉えられる事案で最も多いのは、（1）の「一方のドクターヘリが他事案対応中に、新たな要請事案があり、もう一方が対応した場合」で、全体の 90%以上を占めている。
- ・ 令和 3 年度は 76 件で、前年度より 11 件減少したが、2 機体制の効果は引き続き十分発揮されていると考えられる。近年出動件数全体が微減傾向にあることから、「2 機体制による効果」として捉えられる事案についても若干減少している。

## 4 2機体制の効果の報告

本県では、平成24年10月から県病及び八戸市立市民病院の2機体制とした。

2機体制の効果を定量的に測る指標として、図表4-1-1のとおり『1機体制では対応できなかった事案』が挙げられる。

これは、2機同時に出動していた事案及び第1病院が出動中のため、第2病院が対応した事案のほか、第1病院が天候不良のため、第2病院が対応した事案であり、1機体制では不出動とされた事案である。

平成26年度以降は100件程度で推移していたが、令和3年度は76件で、前年度より11件減少した。

【図表4-1-1】2機体制による効果

(単位：件)

